208
1
706

帝国図書館藏

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

208
5
706

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

浮世清濁

初編全三冊

浮世清濁水鏡序

そゝ[illegible]の野なるの鏡の車[illegible]

雄畧天皇[illegible]

[illegible]

[illegible]

まこと武[illegible]

朝倉文庫

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

整字とかの悪強と毒害といへ
ども人をもて國土を治のごとし。
人の善悪不善の清濁の象
ごとし。中庸ごとき聖を強弟の
おこの徳あるべき人の中をつくすべ
き人情の不善を治し。



善徳をはるの聊設あ弟。命貴
恥の頑癡淫毒の一芝るとあぎ
るべ。不教徳の速なる事を茗し
らず。口つき性の清なるべ
わと。類さまあ去善の姪



国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

国立国会図書館　水佳賀見 208-706
ガラス使用

第一　因く縁
第二　縁をひき牛肉の生魚醤
第三　恵を使るる姫うりの後悔
第四　京の土産をつけざしの孟
第五　男ひきめくるかるた曲の内悪
第六　却乃洞へまぐまと出振袖
第七　運をひらく花聟の教場
第八　情をのこを異い見乃書置
第九　義理はかぐく変姫の賀物


上件

# 浮世清濁　水佳賀見　初編上冊

十返舎一九著

## 第一　縁をひき牛を牛肉の轉生

むかしの何の法皇。毎夜頭痛の症発出まもふよ。医療さまざまの術を尽さるといへども。甚いたしかたなき故紀列然へ飛人清要あり。て。見を引せあるよ。

権現出て宣ふやうの浴場因縁書よ天竺より。きたる良医あり。渠よ治療を請ん人と出るよ

後て。永暦二年の月の旬。因幡堂に参詣はし
ま。ひとまつ新会。ぬかつよ満ざる秋。貴賤多詣
とゝに弭まと。まと告て曰。法堂の前堂に樂壁ふあ
至て。蓮花坊とらひ。人ちう。著く海門を隔ては
佛道を修行せう。その薫切よりう。今帝位は昇う
こまでも。命生の報襲。いまぐ持ぎとて。岩因川の
あ庇よあう。を阪より柳の樹丹て生出。風の
ふくごとふ動揺。則今舟よひぐきて。そのややこと

中せう。言ひそのごろうと五よりが。苦悩ふぐちふ
年金をぐゝと。香ゑをとりて。法堂の内陰を洒
ぎ歩と。おがゝめて爰世あひやぐて手ゑをさんせ
ぎめゆよ。河辺より報襲を名う。男出ると観
音の所中よ義。待明の二十三間堂と建立ゝ
ゆひ。病者と高ゑとゆふとうや。そをとゆきとゝ異
かうとい人ども。大ホひとゝき例あう。ぐをの比ゆや
おをゑん。強河の国芦澤の里ふ。法帝寺を建立くる

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

裏表あり。表表らぐしきものまで。数代田畑を
分を相持し。よろづよ不絶のことなく。命の終の
清浄なるが。当至沒うちまで。重性弟子弱なるうへ。
不思議の宿疫あるて。医巫を尽へ治をめと
むをども。寿だうも験なし。歎めもまぢ不
六年よあまるまで。病苦よせめくるを歩あるが。
ちと全くるまくの宿業よりてのことなるんと。
係よ仏の道を信じ。経ちて遠国山の虚空義

を祈りて。後世の引接と願ひの外。他ることなく
ちるが。此ほど連る疫苦ともく。祈も行念
かくざるあよ式疫虚空義がさ月。他よる
あるを告ひるへ。他の宿疫る玄の罪障
ふるきがもへるとがこともも助命業なし。他前
生へ山城の国の牛飼ひて。苦る牛を叱るふ杖を
力りて。農安牛の頂をうりて。他が癖る。終よ
その牛猶とも碑を痛楚よ級ぎ死ることあい

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

生てもおかめなどまことに子孫ともかこのごとくして
お屋くわをえらべどその数ひあて今生よ所をなやま
其上所婦と妻とこ。孫奇の子とすてろ。於是
凡俗の子。前禍と加災をさればいまもみく悪も
なく。滅形の形もきこうざるゆへ。さくゆも一命況を
愛況者をしても。頃年はしる偶作の命を記し
嫁小伴源とうむるゆへ。そもまで命とこうち
こまでも。百年宅業形るいうて。今昭のうち命
絶まべし。お世罪障のみるべくもかるる富家
生まれて。逆死人の娘ちに。八洲が偶中の祥ね
なく。未来八安寿浄土よいうべまべ。称も遺
感の情と残さず。除絶称会おこうるとうまとて
告ゆと尽て愛さめられば。ひく支。斉異乃お
かしと昭し。感涙とこでわる称てぞふ〜うるる
されや母ひくなまれ性質栗和温順少く先妻八
同村の何まなるうの娘ゆうしぶ。新屋のまうろ

ふたり。女子一人をもうけ。せし後。密夫より通じて
暗に夫をもうしなひ。死して後。後妻おさ
こらの女子をうまの親母なり。ひきとりて
本妻となり。業耀おろそかなる。怨れ良の
命をおこし。子義をして品を拾の食物と折
をして。ひとりきまで病死を業のいとまをとり
かさるをば。ひとりきまで養よけやうをさとり。
ら義はかりとまを我の里のかのあて。彼ら父子をひと

いふの事。大異ある。ひとりを支るゆへ。を返数
ゆへ。ら義の雅沢なるひきとり。食物をこと
世俗をさしおれる内。ら義ら義事ふさりきさ
あの名をば。ひとりを史よりかりて。家業の十ことを
支配し。農作の業。金銭の出入をこしも私
なく。ひとり引史て勤るゆへ。ひとりを史い病身
なり。ら義なくして。万端を弟ぐ死おどの事
ゆへ。其と凡ぐ父よ思あるとりて。先を遠

堪忍して。さまざまかなさしおきさらしが。こよい
虚空蔵がさんの愛おいよ。観念して身のゆくど
ときハあ。おそ家族のふしらる時分。妻おさく
とら蔵おくと。拵えくまゐきてやれらハさま
老年のうへ。持病おりて。自業自得の死期。
きてまて。お暮しゝ給ふ。相續をべき男子れう
ろまど。娘おくとらる年十又暮るまべ。お家の
聟をむくへてお續をとるのむかう。相談のうち

府中安西のもかゝが粋を花とゆくゝ美ひ
うけんと。約束せゝとも。あまど。を茶をの節
茶屋人員ゝ。石橋の筋助ゝ。今家敷ゝ
ふをゝるまべ。おまが粋をう。伝達するとも。
とまゝ出ゝて。無用おゝ。お茶ゝ。今府中お
寺ゝ。ある。与茶ゝが粋年所もよゝ。ゝまゝ兼て
ゝん紙おまべ。ゝ娘よ。お茶の縁おゝべ。ゝを
ごゝ年若ゝ。ものゝ。家業のゝ茶屋ゝ。ゝ。

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用



系死後。与義おさこと夫婦となる。後ろ〜て
万事を指揮し。出入おさこの子入ごと。眼目
洞を浚べて。裏ろ〜げかいよぞ。おさこも同を
きつついと。ゆごとをのこまふぞや。出産重病
ちいひるがつ。さゆうの仮なきこ。きくもいなし
乃ちだ。でく出産後く持ひて。きこ〜もさゆく
出年腋を称ふ。ろまだ。けと一万一ものとある
ゆ記せる。とが男畏ち夫をかさやる所者なく〜と。

いふ尾ようなこと。与義繰きろよせ。ときとく〜ともも
あるこさの出来ん。海山よ〜ごん。生涯ろまで
乃ちだ。すりも出死去ちゆ〜ゆくも。出源のことん
一命ふ人とも。無器用いこきまい。出ふがくお
さてこさの。夫婦ようなれこの為ん。ぬいふ〜ともも
ちろん
勿論ん〜。出産ごろ人出用捨とゆ。ときと清〜
ゆく〜きまいん。いやこそのかく〜きふろうのとけある
こ〜こ系ろ称てよく〜考まろ。さごめ〜。出産のこん

病りゃけ〜ゝの。今死うと思て。手繰の遊こゝいのゝ
あるもりんが。よゝと思へ。ヨケあるゝもせる。おゝきゝも
さゝよ。おさてゝとゝも。いまゝ。ゆ千よ。ゆゝ。後ゝ。ゝと
ゝそんも後ゝ。手義が実義ゝもゝ和ゝ
ゝ。ゝゝゝゝゝが。ゝ。世界ゝゝゝゝゝ。おさ
ゝと史跡の縁とゝゝ。則ゝ。ゝゝゝゝ
ゆゝ遠賞のゝゝゝゝ。ゝゝ後の要ゝゝ。
ものゝゝ史跡がゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝ

ゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝ一人ゝゝゝ。
初年ゝゝ。伊勢の初版ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ
ゝゝの当主ゝゝゝゝゝゝゝ遠国位者のゝゝ
ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ

おこ〜そ〜くるよちう〜きかう人人とそ〜らそ娘の
ふ〜うるとも。ひきおとこ〜て遠来まべ。ぶ〜こと人の様
子よりまや。洞ごてまふまべ。ぶ〜ふ年文あこまのこと
をそう。さもそう〜げふうあやうのとが命況ふ遠きて。
そのやう今うちうに。四子義と父〜あかひ。ゆうゆも
うれ
渡が洞を肖く。まべ。まこあこてとも。かこ〜ぎ〜く
濁〜毋しあもいど出舟とう〜浮。考ひまべ〜。
かこやこういふごうふあ〜ごまこうこべかとと

ぶ〜ぎ。あごやふ様操をこうぶ〜ぎるにこをこ〜て
きこ〜いちう。生をつ〜て府癖のむ〜あまべ。あり
ふ〜命治もこう〜ぎ。ま要いこうをが。こをへの学
ふう。こや今生のいこうごひごこ。ゆ様もおこうう。
そをこうこうのいうをごあこうをこ〜ふ然〜く浜入〜。
生作もあく〜ふ〜ぎ。懐むべ〜ぶ〜こ文。ふ千文
巣本と一弱こ〜て終こまこうあくこうあるまこをや
焼邦の雑子よるの弱。生あるかの。子をありふ道の

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

かいつぎ。あさてこよ義のふ義と外ぎ。くいて清と
ろく人ゆこと又ことろか。娘ぐて葬略ようさせまずき。祝の
義然こ子の河市ことさま。自身の接ゆこと凌ぎこ子の
改まぐと。ありひたりしこと。ろ絲。人こて道ひろ死
てこ子〜。あさてこよ義ぐ祝魂ようこて。感涙ゆこと道
ろぐ。さて〜もあ〜祝ぐ葬送の嘗こ。祝ぐよ公と
こ。こて。子周こと。ぐ子〜〜〜ろれる

第二 恩と仇なるふこの後悔

生者必滅のことろ。今さこ〜殺ぐくぐ死ゆあ〜祝ど。
ゆこ。いろふとも強ゆ祝く。あさてこよ義ぐこ子ひて。
ぐ〜こ子の葬送ぐ子〜ぐるぐ。金銭と出
ゆこ。ぐ子ぐ死ぐ。ぐ子ぐ死ぐ。ぐ子ぐ死ぐ。
ゆこ。七日〜の仏事嘗ぐ。ぐ子
ゆ日数ろゆけば。ぐ子の強くこ子ゆ〜こ子ひて。
ぐ義ゆ祝祝ぐよろ。ぐ子ぐ死ぐ酒ぐんて。
ぐろこ。人ぐ死ぐを葬ゆ。あさてこよ義ぐ子ぐ
あろこ。ぐ祝ぐ。あさてこ子ぐ。ぐ子ぐ。

国立国会図書館　水佳賀見 208-706
ガラス使用

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

ゆ〜き時分のむとめ。當年人をそろよ出。
ひきよつ〜もて業躍のあまつ。むつ〜をまとまと。
の同をきのびて市内と密通せ〜と。今まで人伯の
ところもつらぎつ〜ふ。ゆ〜きを支どの出藤後のこれの
お親。よ〜つ〜あつ人。大罪と犯せ〜ゆ内と。乳明
も市〜きぶど。及て市内とせ支奴こせんこのとこ。お
まつ〜ら人。宮利のおどのおそろ〜さ。今まで人支よ
きのび。出門と兼てのそ〜ちつ〜ゆ。さのこ人〜の

残ゆもあんぎつ〜ぶ。今かくるつて。怪るくこも
ゆつ〜ゆ。ゆ〜人市内よ刑者こ〜まへあよ湾ろハ
人情のあ〜ひ。波あまこの支奴のごく。ぎぶいふ
つのこべ。ぎ刑つ〜教を市つ〜せ〜。ゆこきの世侍も。
自殺こ謀器よるる方程。是市てのお使い是
殺るこ。ゆ〜人人をあ〜こめ。市内のこと思ひこぐ
まつ。おこを人聟とつてのつ人。ゆ内いなまこ人の者
祝の為。尼ぶ内ゆこも。さ内を人〜こて祝ぶひるまこ。

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

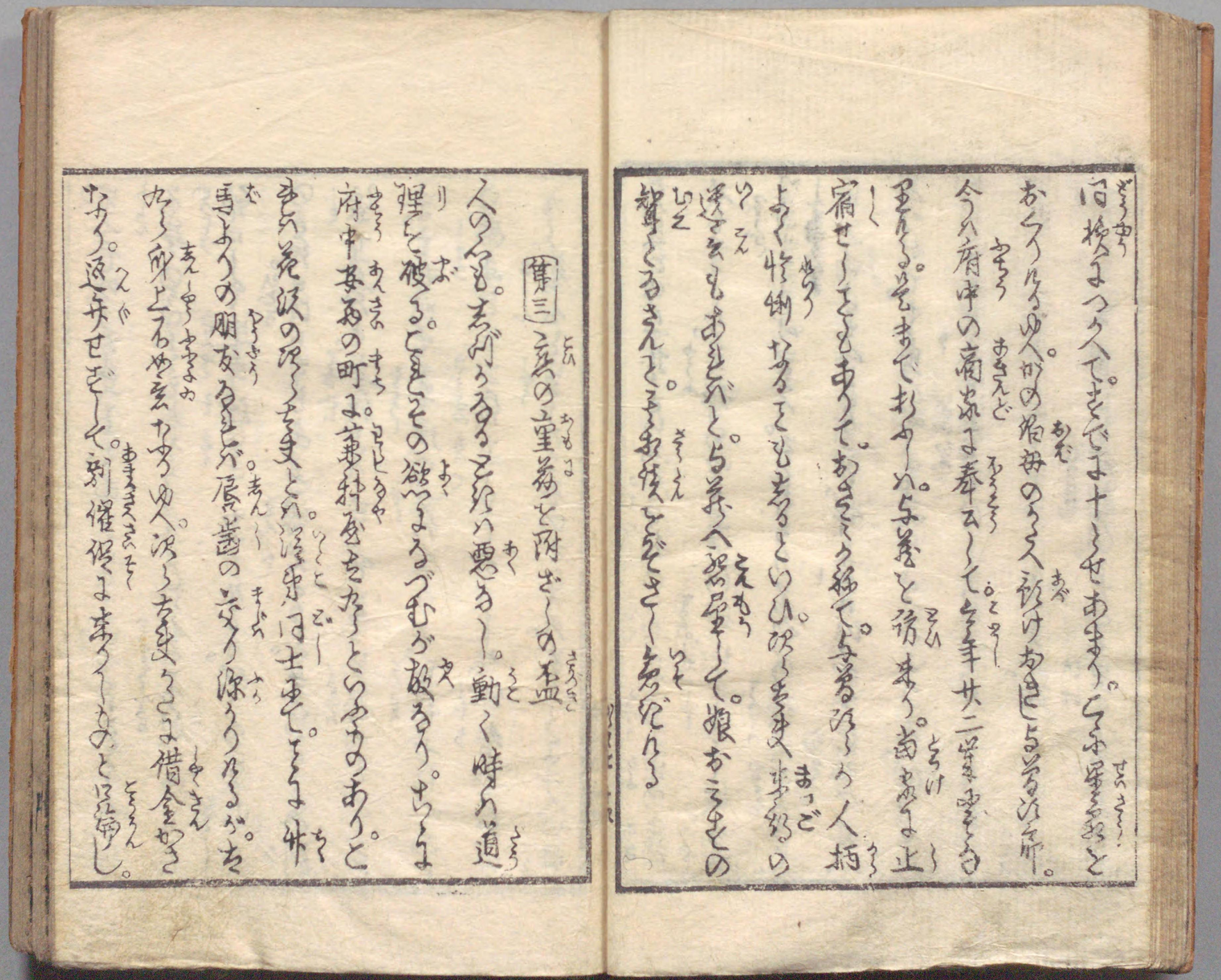
早さごいのいとづくに。情むまれまさめ〳〵と。あるひ
うけなく。業よ相遠の接扱るまに。多義面文を
加入とりよそに今まで。乃るゝ〳〵ふ武弓をども強よ
しけ頂。故旦形そのよゆるさまて〳〵ふうう中。あゝとも
て石出はさざまどども。市郎へたやはれ〳〵の女房いると
なりているこあるいとろ元をこぷゆをもまとぶ。お
さてこまとよりて。その見明とのゆゆさまとしゆへる
とそ。市郎と縁へくまと決。こごいの石物の象も

るく。あまりきへ今かゝ文あるこゝまとある。詞
をそもむくが。則あつこへうの義理。かゝやこの身よ
をこあらいゝまと。市郎へ永小女房をこぷ多くるこも
よびむうへ。おこまとが後分をて。市郎とこてさせ
あるべ。かくいへばこそ今文市郎をきらふゆゝ
あゝぎよこりとあゝこもりこ郎の面者見
ゆ
腰をこあゆること洞まこじく理をこめていふゆこる義
まぐゝく面まとこて。孫義こてゆこしこ郎者まく

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

てやりたい。さてもあやまちくさ。そうくさるあはよく
もさへ公づうせのふものうるる。まゆ浦程のあまう。お後
とうとうとうと



同様よつて人でさせあます。こゝに堅義と
おくりける人がの伯母のうへ訪ひ申さるべき所。
今は府中の商家へ奉公して。年廿二歳迄
勤る。是まで折々いろ〳〵と義を勧めし。尚あるよ正
宿せしことも有て。あるとき稼て与兵衛さう人柄
よく性質なることも有るといひ。ひろ〳〵と歩行の
遠きをもあなどらず。娘おこうとの
聟とるさんとこゝに相談とぞさ〳〵考へる。

第三 こゝの堅義と附ざしの盃

人の心も。まがりゆくこゝろは悪る〳〵。動く時は道
理を破る。こゝろその欲つよくるづむが故なり。ちうま
府中西横の町に。商家を立てとらあるものあり。と
ても花汲の沢〳〵と支とゝ。沢東は土地。ちゝ
馬よりの朋友なるとゝ。辰蔵の交り深うなるが。ち
ゝ〳〵所とゝるゆゑ。沢〳〵支とゝ借金かさ
なり。返弁せざるゝ。別段催促よ来るゝものとゝ。

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用



及つて次ぎ次ぎとを。あ〜さなよ罵詈るごとく。理
不尽のうつゝ。あやうく生命を。怒る慰の中〜敬。
絶にして近年漸さとやうくるゞ。次〜支病死
のことに日ごろ。あるとも。源考る上。年ゝを〜き別
梁なるべと。長沢より考〜せ考るを為ると。さぐき
ま。ナせめて葬送の世話をを〜。智物がしてあと
の始末をも。お後おまとるゝ〜ゞ。邪智ふるに考
ち〜。窮公を生下るそのおろかさ〜ゝ二人の姉

あり。悪所の小百物の強高内を渡せとして。年中
宿ゝよ考〜ゞ。次男吉作ゝ。天性美麗ゝて。
人品よく。生年廿三歳よりうくると。先百姓
吉文。器量せ〜とあるべとゝ。長沢
の智と〜。吉ゝ〜後見〜て。家我を自由ゝせんと
仏ゝ〜。孫ゝ如月廿日浅間の社参れ。
仏ゝ。長澤の後家ゝ。娘を強〜引〜。物
のこゝ。保ゝ〜ゝ〜ゝ〜

中つぎ〳〵にくるゝ。さたゝ子義と所
通〳〵するとゝいふじてあ関西せ〳〵とる丑しが。必定
あさゝ淫奔するゝんと推あふ〳〵。彩とゝ人倉せ。あも
ゝ公家をゝうけ。かゝしをゝさゝ人くまよゝ入をとるべ。男ゝる公
の後ゝるゝんと年比ふも仲合ぞ。別然ゝをの夜
ゝゝまゝ。その日と今やゝまちゝるが。あさゝゝさゝう
ありとゝ。むをあゝまとゝ。娘女おゝんとゝをつけ
て。ゝ男とさゝ〳〵ゝ人ぞきゝ〳〵ゝる。ゝ男い

おゝうまゝしまゝゆて立ゆう。娘女のゝ腑系冬乳を
ゝゝ和〳〵。ゝゝ釈ゝとふ歩有〳〵ゝるゝ。ゝゝゝ後男
の男〳〵ざゝるとゝゆゝるゝ〳〵あゝゝひゝゝゝゝゝゝ。
娘女おゝんの。男ゝるとゝゝをゝ。ゝゝゝゝまゝゝゝ。
娘ゝを化ゝとゝあゝゝゝの娘ゝゝゝんとゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ
あゝゝゝゝゝまゝ。ゝゝ弱ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

だ。さて〻〻ことさらうて。その沢潟者とそのへ。
去能と初め。おこととも同席あて沢妻をはし
殘り。ものじて。さか〻〻おこを入毒とさてやりるハ。
つ〻〻〻〻るこの親又沢〻去まどのこ。をこ〻の沢
ゆて。を生者通こ去ゆ〻〻まども作るよゆの親
女こて中府の野ゆ〻内〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
いゆ〻〻ゆ。始こを。〻〻や年ゆふもなゆ〻〻〻〻。
仮食衆聟とこ。んゆ〻〻をこ。おを無の者もゆく。

いさゆ〻〻よ去をこゆゆ。こてのを能こを生産業物。
よを聟ゆ孫〻ハあゆ人ども。今表面義絶せし
中。ゆの殺ゆ〻〻て去ゆ〻も出来ゆ。ゆをこ〻
よれ去をこを去て去孫ゆ。を縁〻ゆひ去南の為
ゆ〻〻ゆ〻ゆ〻ゆ。孫て。沢妻土の約束ゆ。
去ゆ〻さゆ〻去去ゆ〻去去ゆ〻ゆの病死せ〻去去。
一旦約定ゆ〻ゆ。後日ゆおさ〻〻ゆの人去去を
ゆ〻。婚姻をゆ〻去ゆ去ゆ。さゆゆ今

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

そるさのひえうけ〜さいづき。さぶのうへさ〜
あべらかうえ玉ゆくるべえふろう。そうはうは祝
云のまるびも一奥るうんと。盛をていよぞ。
おこそとの新をあうめ。ゆらくまべきやも
ちうぎ。そづうげよさうふけが。焔女引うて。
いうさるゆ。ゆどもえのまうどるさるやう。婿徳
ごとうておあそびもおりろかうんと歩ろひ。
おこそとの袖とひきて。玉程よ面こと。さぶのうへ

さうせりまとべ。ちかうう程年〜そ。まとこそよ女人の
体。仮合うる文始。雛一弟をかざううぶどうく。
さもうまてうげよ沼教色ところけ。ぶ行ろ
ぎて奥よ弟ぶ。あもうぎど教年とうれうるぶ。
ちやあるも沼文よおよびるよ。ちかうおこそとの
うをとうてさそもめどうう。ろうや弦そいい五ゆ
ちそこうべ。四こうまよ遊あべうう。さぶとあく
のゆよ年をちうべで。そうゆ方べあこうも。ぎひめ

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

あもりをかうるなぐさむべし。されば親ゐがくも
ゆく末とこれちぎひ。差れ時教授をたしさるなぐ
の稽古を去のだ。世間と是うる家〻身分。かの
ぐうれよの教文とこれ授ゆるうんを利生もまた
こちぶ。不夜さゆくそこ。おこたをの脊と考こうて。
是〻ひ載まるぐ〻。中安おこたいよ業〻。当人の
家を。おく〻のまふこ〻世乃是〻。かこたいまうと。猶
せ多うこれ無〻せんく〻。ぐろ〻ゆをおく〻考げめ。お

是の袖をひきそ。おぢさるの教まこのこまみ出何へ
うまこ〻ろれどもうりや試るゆ。物さるへきこ入るべ出
去うもきこのどくるうゆ。今宵いこるこもろうとも。外
のゆるふ家まるべく。考飛さること桜をるべまらう
せんとこいるあいあ〻稽ぐ。あまうこもゆられしく。
ありてぐせるまぐ。とのこてぐうハゆる〻あ人とさま
ぐふ。あぐけるれ姫れあも雑為〻て肖されが考ゆう
大れよ年及と接ぐ。是れ〻のゆるをとと。ふれう枇

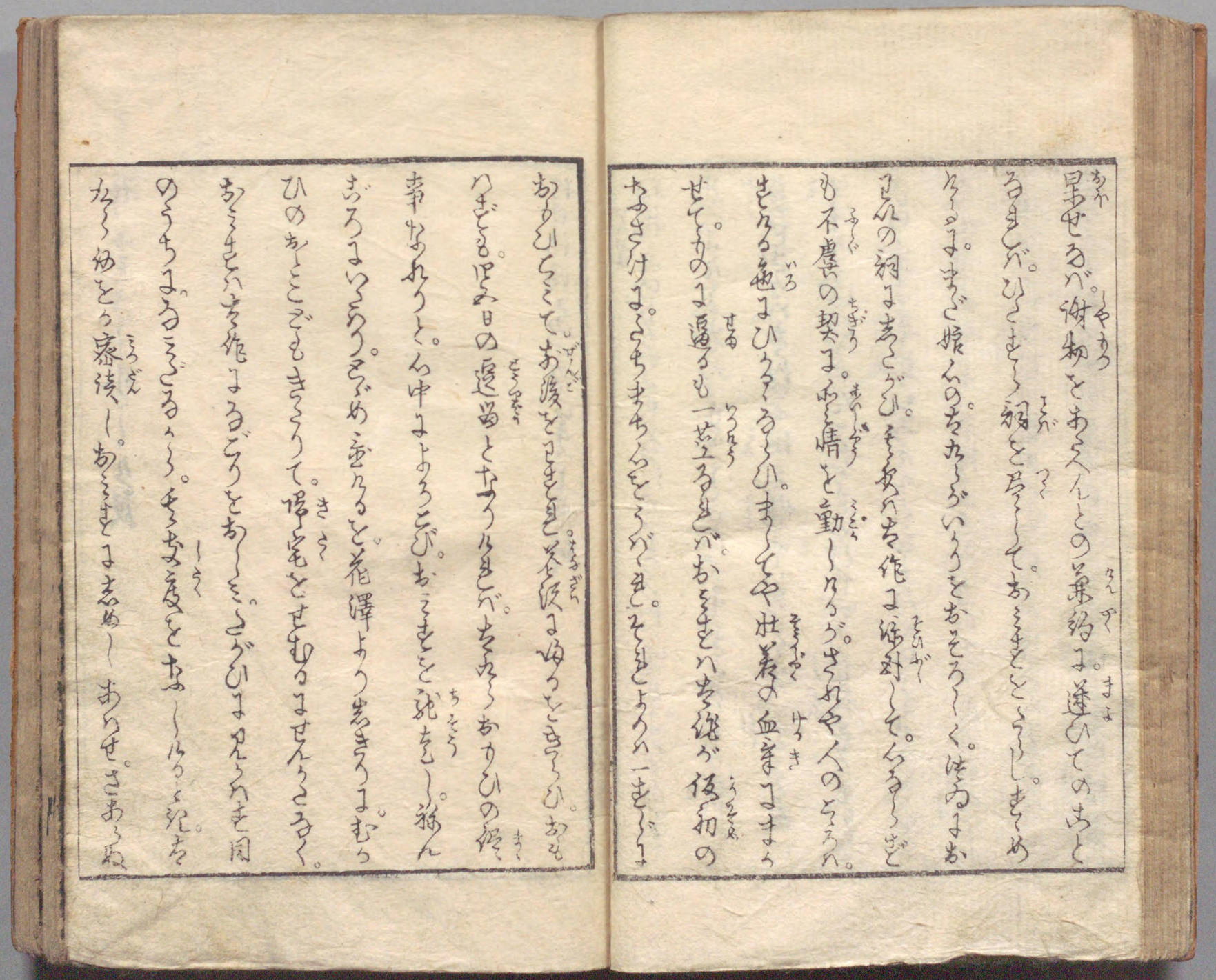
国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

はん
判をぞ。巻数の後来とて。ものがたりをとかるさいわ
さぞめ。物語。人よりゝめとても。あゝんと思惟して。
孤とうるうる。そのうるこのうるの女。かゝまちもるべよりと
とかりのようのゝ。ゝづろひうるると。変下より白と和ない
てろえぞと。拝えげ。ゝく同の長うるをびゝ。おうとと
ゝや成ぐこと。いうゆとも人選ひ。ものを神と新の書て。
出ゆ。ゝうると。おとゝいさ。ゝ。ものとうるぐよりゝるぐめ。
ゝうくゝてとゝめうるゆぐ。おゝとともさとがゝうる実あう

ぬ稽丹のようかとも。ろろ丸とうろの内。途中ようとてぞ
月人へよりる。ものゝ月ぐこせ。ゝ月ぐこちゝ。ものとが言ゝう
毎ぐぐざうゝ。ものと組ゝ嫌ゝと月ゝとうゝ。考える身の
口ばうゝ。ゝひぐうゝ丸ゝとゝもゝりゝて。かゝゝ心配ゝるゝ。ゝる
ゝの身ゝ。尾鰭をつうんゝ。あるひゝてのゝるゝゝいる
むゝうゝぐ。ゆゝゝきゝれよゝさうぐゝさゝゝるゝぐ。他ゝ
ものゝよゝひ約束の男ゆゝて。ものゝと。居ゝるる
ふゝゝよゝぐ。ものゝ女ゝ月ゝ月ゝ。ものゝよ合体ゝて。毋煙を仕

国立国会図書館　水佳賀見 208-706
ガラス使用



国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

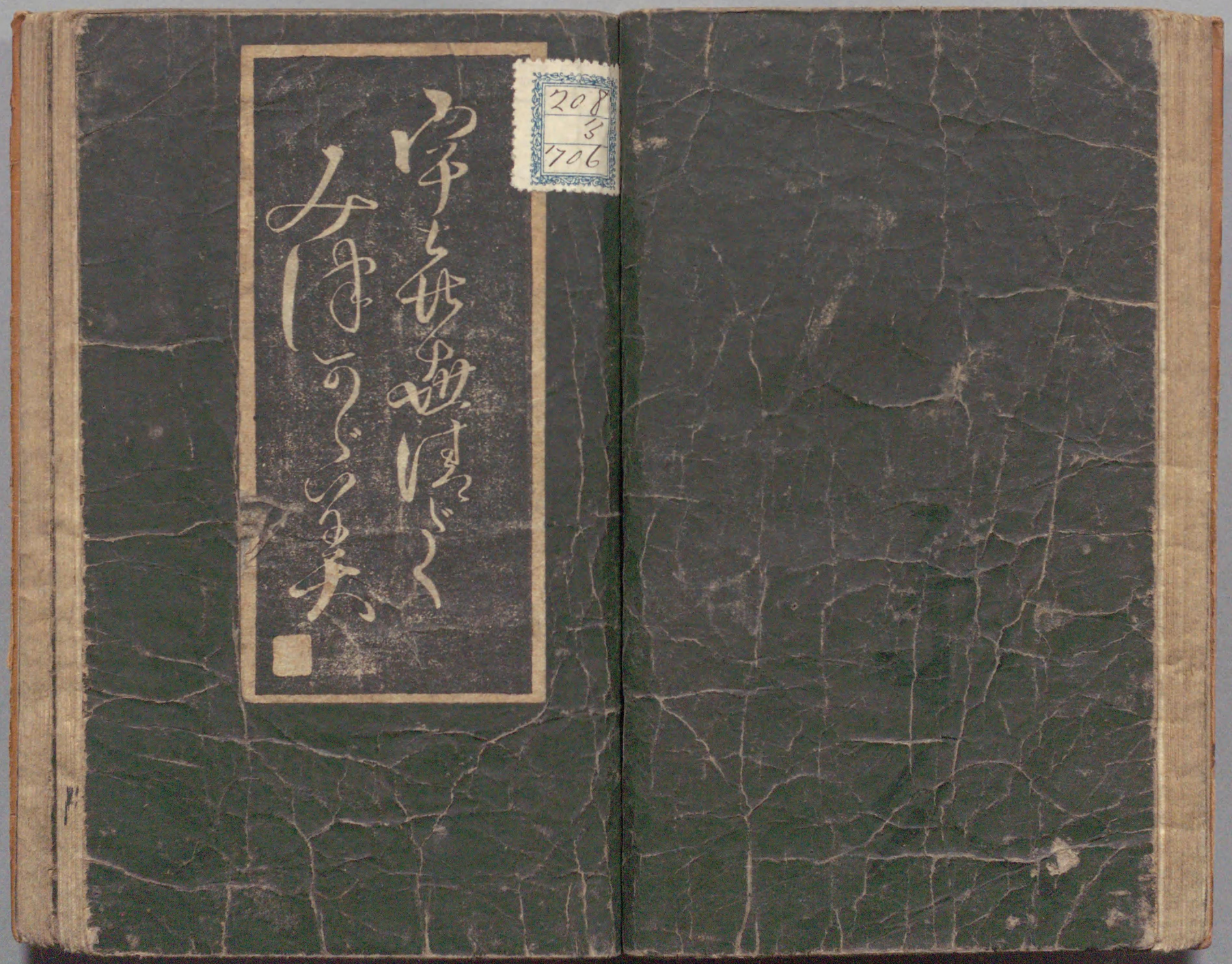
208
3
706

作者あぞ。さ〜ぞ〜ろ

浮世清潟 あこの美上冊終

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用




国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

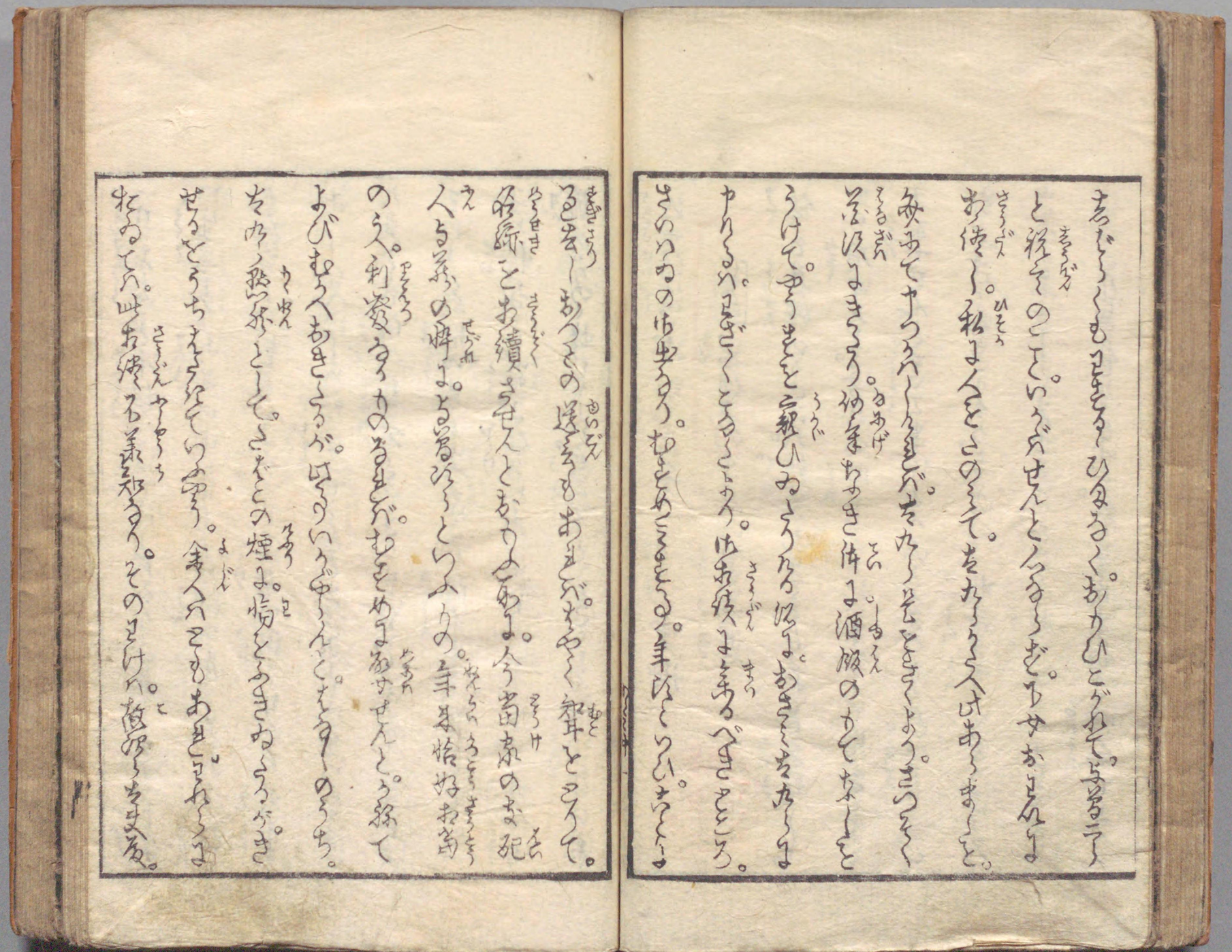
浮世清濁　水かゞみ　初編　中冊

第四　思ひきりの二代醤の旧悪

偖も芝澤のうらみ。浪界おさゝ与兵衛と申候し。
町の府中なる。与兵衛の粹与曽次郎とて。娘おさゝを
よめせんとなをさきゝ化よりいとをとりこひ山そのよりび
むこ人さゝあきなるが。与兵衛性質悪敷ありてさいろ
さるもやさゝ〳〵人名をよび。おさゝ悦びておさゝあも
ぜらるゝ。おさゝ化よ性質和てよろ。

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用



きだ〳〵くもはきたる〳〵ひなるく。おかしとがれて。ら岩ニて
と程そのことい。うだせんとつるる〳〵ぢ。ひかおれる
お使し。私よ人をとこのこて。きれうう人はあ〳〵まし〳〵と。
無みて十つうへ〳〵くるとだ。きれ〳〵そこをきよう。きつそく
笠沢よきうう。ゆまちあき件よ酒飯のうてちし〳〵と
うけて。ぢうきをと親ひみるうう。ぢうるはよ。おきこきれ〳〵る
やりるへ。ぢ〳〵こるこよかく。ぢうう。はれ疾よ来るべきところ。
さのいあのはぢう。むとあるとる。年ぢ〳〵いたく〳〵

るる〳〵ありさの選をもあるべきやく舞とろて。
名跡とお續させんとおりのよある。今當家のお死
人ち筆の時よ。ちる旨ぢ〳〵とらよりの。年ま怪好お寄
のう。利資ぢうりのるるべが。むをめる家ぜんとう称て
よびむうへおきこるが。ぢるのいうぢ〳〵んこ。ぢ〳〵のうち。
ちの飛ぶとしで。さぢこの煙よ。情とあきぬるうがき
せるとうちえるぢていのあう。金人ちもあきこれ〳〵る
れるて。此お使る義郎る。そのとけ。敬ぢ〳〵ち丈。

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

一旦家なる人中級〜。若通どべるゑ。ときどもそうにおの
入馬よう。あ魚の中。あり。あ詞の序。はれ〜。脾
去雅をして。おこをとる家せ。尚寿の副〜せんと。絶家
あ〜〜ゆへ。内〜に約束せ〜〜とさらめ〜中鬼いたるほど
ひまでも。佛の寺念ってさるもいでるうつくるる浪
はれ〜〜に級せ〜〜ゆへ。家中の隔かあるべれど。寺作
はれ科る〜〜。我よ仏のところ。ろうかるひ〜脾。今石仕同
前のひの脾とって。敵智ってるさんより八。敵族の系

名の脾ってさごめんこと。順及なる〜〜。去るべ〜系
遊て。そそとと拒むよあ〜ぎ。まてヨが脾をきてむる
ひもあ〜ぎ。只拒の尚寿と。いつまでるうとそそ〜
うそぶれてぞねうりる。おさて人命ま。歩とそまの
送てえよ。去ひ〜脾と縁族のこと。学用ろうとありし
頭へ。此人の子ある寺人と。あ〜てのさてるうんと。
拘よ的中へ考えども。送てえのてく歩あけて。それる
いりとぎ。此返ってよ尚歩〜。にごりう是ろうりとび。

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

与兼次の宮よりはじめて中ごろへはいらうあるをもて
うけうるはしたべ。家はおのおのかの伴よ。各終と副さん
よりは。出自分さるの出子息ともいてまるる程の為
形とのお引はたぐ。色ろがく。一藤の出子出るうるべし。
こと人高貴の出方ありても。家身毎ごとよりつぎめく
とと。犯とその例あり。まことや主殿たちのあ。そのよろき
つまうまるとそ物の美ぶへあるまぐまるう。ここと
上形。出殿修の物はれ〜〜後〜〜。おこをとうるとう

そよとく修行うと。其上ふもありがたし。おとこぐ
あるとこもとこれこれ和口よりうや出をも。おまうしや。自
百まるまあうう。なりて修ことと出くうと。おがら地
もくちあ〜〜うとべ。そとこれきく〜〜ひ人。とまへせられども。
佛さるまんよく出家初めことうう。出るぐ〜身傍ま
なりそれ。けうそいさ。ともかくもよ紀。
出相後まうるぐ〜〜。ふまるる修て。かのよとへはら
性るとべ。そうるうとうくらいよりで。きかうきくよう

容より筋とあらはれいでぬ。死人よりうちるゝいうやうの
ことことなりおきうとも。弟より強盗となるをためし
るりとべ用るよりぎいつざる方言商賣の婦子
を。手ヶ方遊代といふもあゝ。ゆべ後見るどの片後
いさゝと。嘲笑をまとうる義。後よりまた入る婦。死法
ゆふうとのあせうをゝとと強盗るるべ元用ゝを
ぎとのとまゆうに人は生今そのとうるの作られゝを。
義敬せゝ所およ。故況ゝ手まさるそうるうの出

子母を出て。強盗せゝとあらせられゝも。
とと則強盗るゝさを生べそうるうるのお利も。
分云ゆうといふせもうそぎ。きめゝ形々天火のやく
なりていゆゆゝ。家内ともうるまとありのや。そうう
おうさと合体ゝ中合せて前あと押付せんとの子ゝ
ゆうるべゝ。ぜう人に和ゝうらゆ育ありとおうをとゝ作業
ゝ生まるとゝ。ぜう和ていゆゆ子うる達。古人とうる
よゝいきべゝ。故況ゝ手まの血猛とつぎて。今商売の

国立国会図書館　水佳賀見 208-706
ガラス使用

はんぎつね
半狐とゆふ名ハ世をみすて一人ゐうきくらしかなしび中村
ところ別ぶく支度が終もはおく一人とくて心自くまド
さるを程なりゆへうあむまあかうをよかりてなく人
ことわりふこれの時とつれをなくしてさくらびとあるひ
びけるき羽よ。おきく作夫してそらあゆへきのさ
まよそく。つよくもうこをきをきれ。あるこひてさこそを
ぞろれところり。ゆへとれ。人こるおのをとう前とをて
後をとろとしまこへぞとやを思ふ千里めとへ教ふ

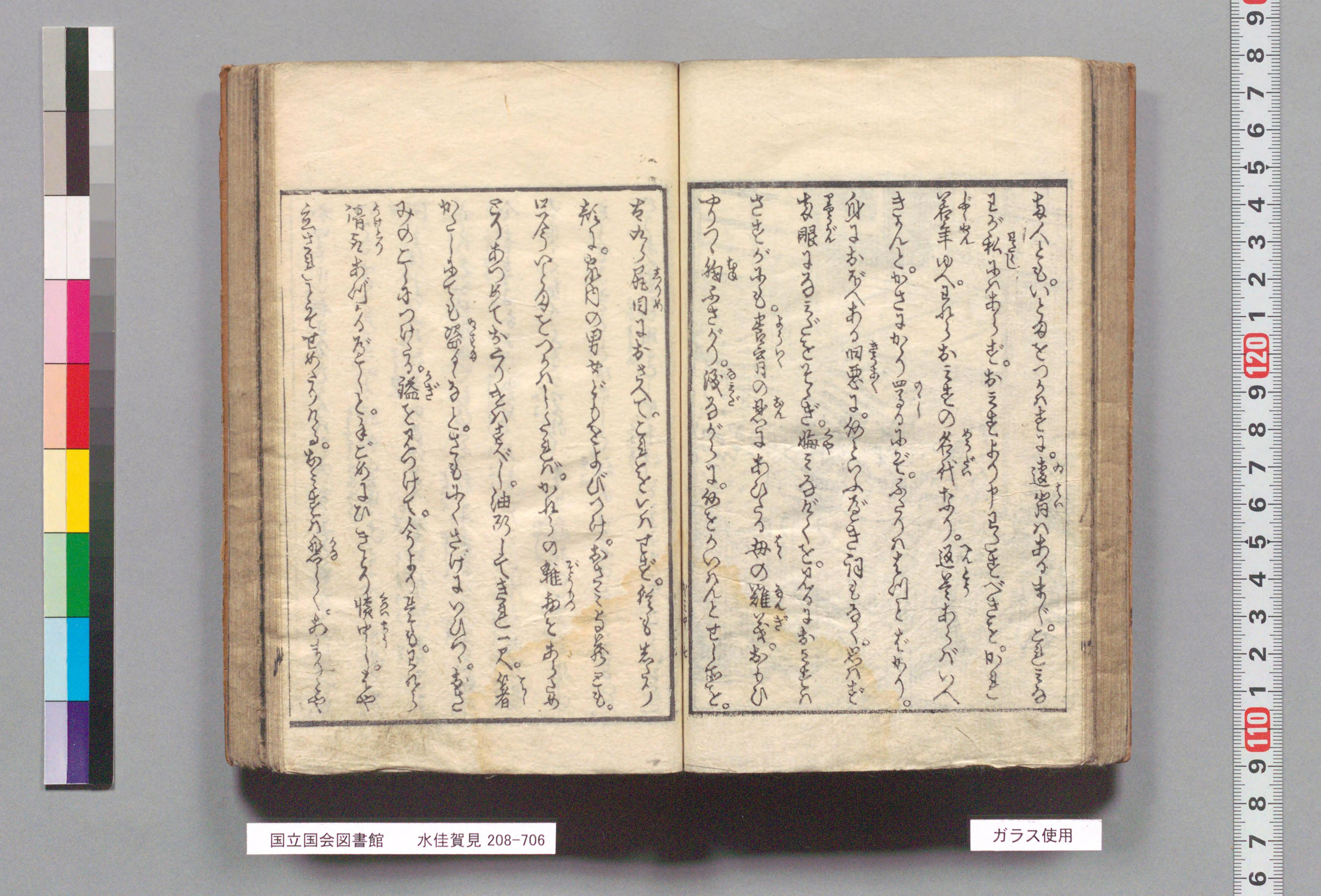
支度者生のうちより。其方ども女人。る義密通
あることこをを。まるまでとあるりふや。去る張て。女義
の件をおこをとと支物よりあるし。伊勢る女人。はゆ知る
を自由せんとの儀年。言葉ハ別のくせどるり。おさ
これをとおこをとが乳母ろるを。ぶ支をひきとをを。
中妻とあるりしる憍慢し。高慢をとをををかうをこと
あるをを届ら義こをも間罪。あるて吟味すば。ぶ義
支度の病死とゆふ。伊勢るが亡落ろるも去れぞ伊勢

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用



国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

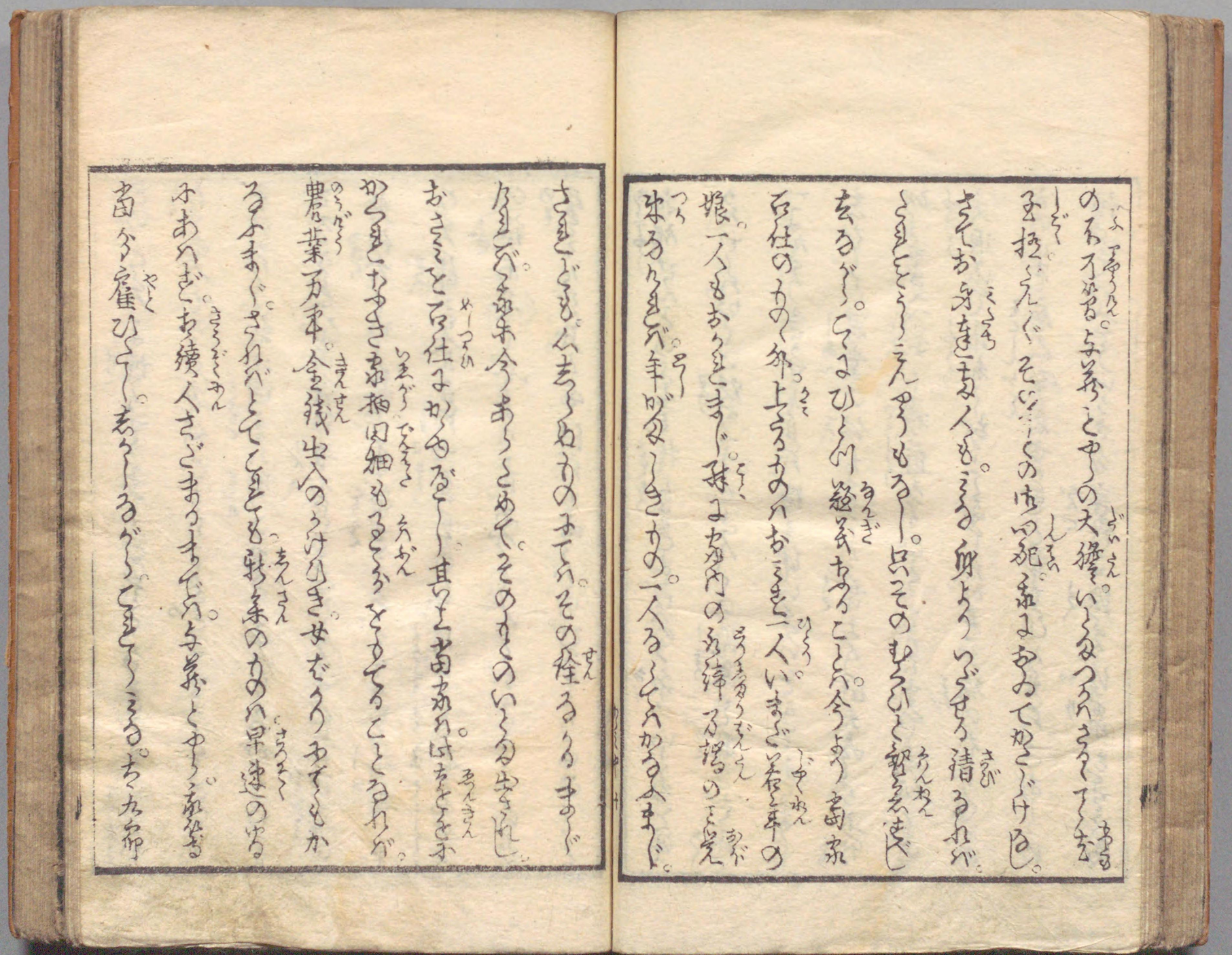
かいとし。母さうだうハそのまゝゆとさかゝくさびしくも、
いろゝゆくさもぞ。かゝる騒動之中。よつゝ所ゝさまの分。
瀬之法しらハ。初年のさ紀より。勢引相撲へ出さま
うゝをかの所ゆてもひさち。教年出れの業と勧め。
今老年よりおよび。出所人数とさゝ。尚附場長
の外しくちうゝるゞ日所ゝ支病死のこと。私婦の
ゝ世よ。きくしひさしく。後の法表の所分ゝるもゞ。
さうあんぞ諸用さして出乃中さいそぎ。

只今ゝいとのことゝるゆくちみゝをゞめ。ゝるゝ
おどろ紀出ゝ所ハさもあゝとゝる入と猪ゞ金ニて。
いづもも。終てひさてきき射面ことゞりよ所ゝさまの
悔ゝと述て然傷し見自分ゝくの無ゝと行合
彼見無ゝよ時とゝ。せしゞ衛ゝ場つゝく比
序のる体とゝるよおさゝのやゝとさべてのこと。
仍ゝゆゝとゝゝ見ぞゝ重の危因とタてゝゝ。ち
みゝ。所ゝ乗よ向ひてきゝハ仕ゝゝゝいゞゝ

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

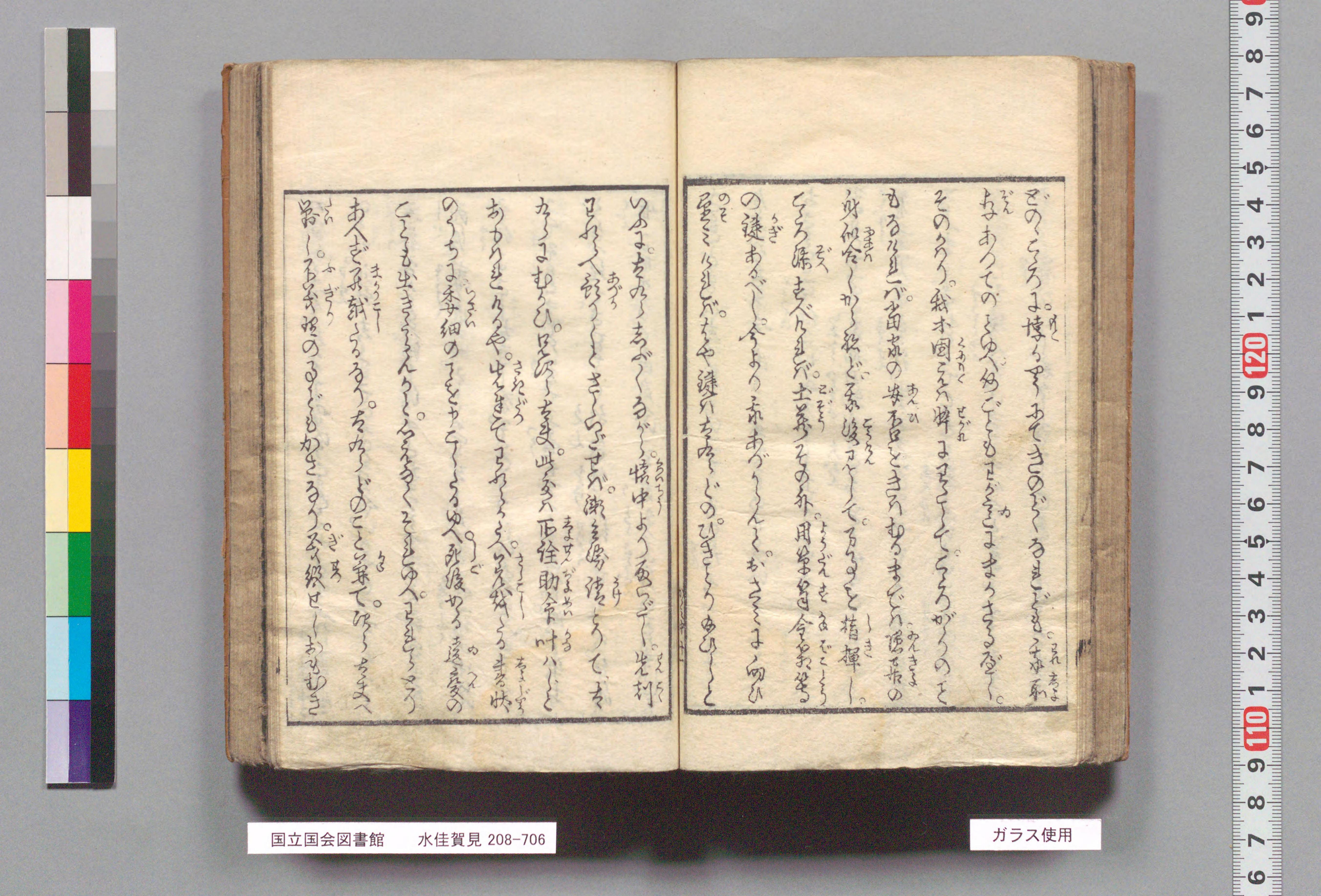
ガラス使用

中伝るまでも中古和のでゝ。尚京より今ゝ和歌
外様ごゝ〳〵規矩るくそのすくゆへ立國の作
住居さゝ〳〵あるて尚谷路のてふつい。あ法あ
てゝひろとゝろ。さいいのは別ゝ法波寄さう沼う
ゝ支どの。ゝ稀く聚屋あゝ〳〵ゝ西べゝれゝ粹
ゝ飛ゝゝゝを中のゝゝ。おゝゝゝの知耳ゝ〳〵ゝ。ゝ続ゝ世
んゝゝなゝゝ〳〵ゝ和後東ゝ。ゝ。ゝゝゝ



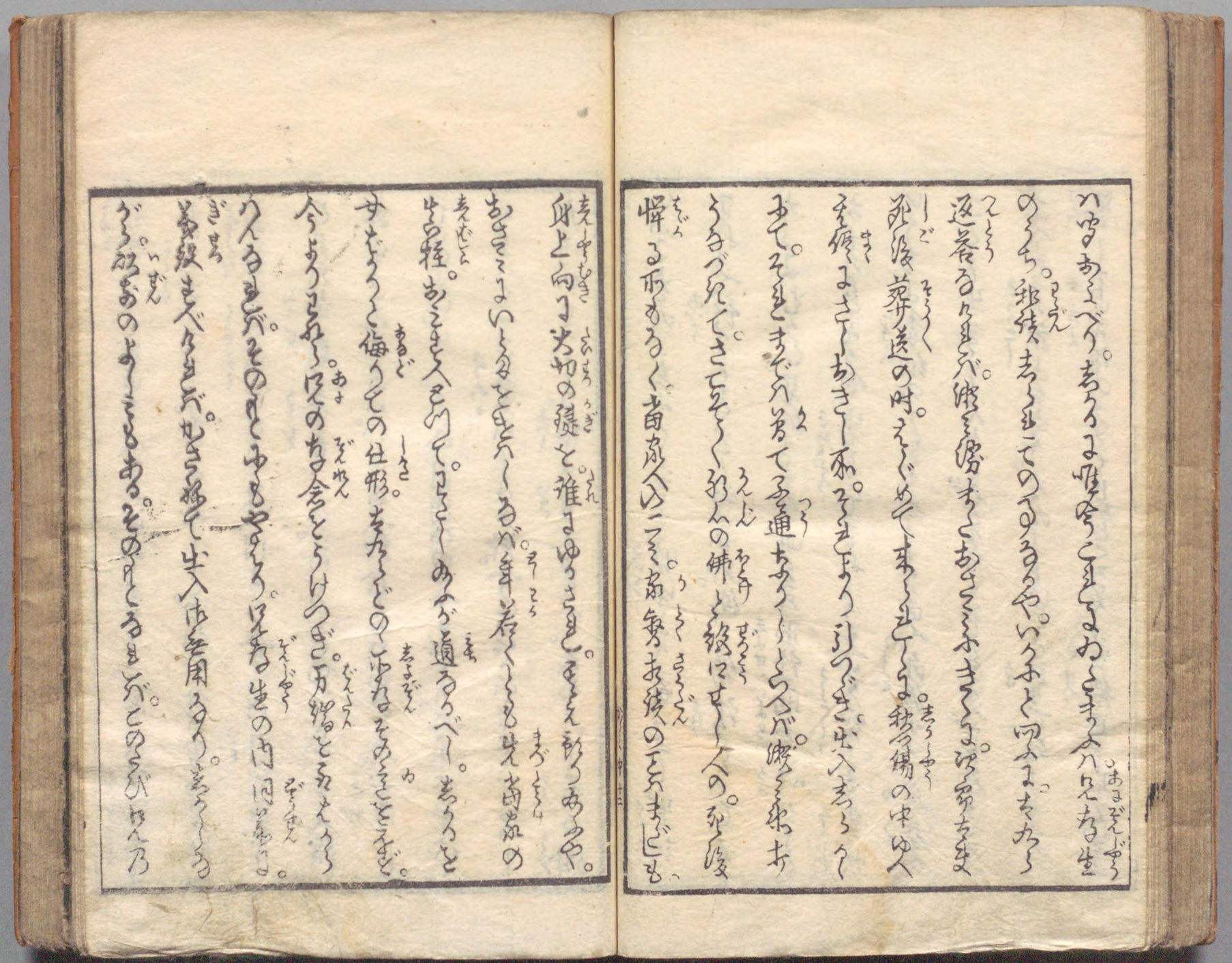
国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用



国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用



国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

祝会をしてそのりくとまで用ゐて。金子の徳文あり。
さて五右衛門ようてをとりかへて。供の男あるを。
当流の技術とろうよせ。門より金子の包と五束。
とりて仏前へ番奠して。百目包のまくおうをと入渡し。
終日ことに十五人むさぶる人。銭拾ひあつめて人出来ましし
てさてしいでて。そ外門の男共まで。百疋二百疋づ。
そなたくる善きたへ九郎どの。今までひそまくくくり
家内のかのごとく。係よ男こうちて。出ずまして花の洞

とろうどとくおうをとあさてもの。内中より安堵の
ものの。彩る出まどの。左右ひとうを持ち。御ろ湯
がいきをのよ手をと奪ひまあらいひさげ不足申れど。
くちぐりてをどくことを出ぐうさるおうをとホ左
まろ同づくひ。出てきよといはれぞうの彩分して。
さもホ奥けよ出めろ。御ろ東るうせべ。おさて与
義八進出さるを。左右ぐ子この時を義入絵ホ高
東遠乳の基ちめるべきと。高運つくぐ。ぞうざも。

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

四位殿よりおよびくらへ。全く野性獣心のきみ。行ぎょうて対る矢のおのれよ及び〳〵。えんぎの初なるべし

第九　母のるこぶ時雨の振袖

小字相の房へ入てそ者清く。勿体なくも遠祝きそく。つ陰へ紙よおかく〳〵まして。そ者よごもこうおさこう

一見石義の汚名へ。ゆ家りょうまでも。ゆこまそ文が家朝の

一言よ。先帝と悔こそもよろくるよちろのてかう和みも

みぐうぐへしきとこと。ゆしこう〳〵も。きみ〳〵の書よ回

あ

為を乳母せこまと。身の波。流きれまく〳〵と。涙を湯

のそこうひよりて。皇まこうるくこもれびいふく。卵と

殺てこまの石仕のどこくこよおこうとを大切ようこうた

まめやこうよ家こうるゆそ。与義も元来不良の公

あこうぐまび。こうりゆとこうぐをあこうこあ。野骨の勅

瀬こ湯。遠国のこうせそのん石をとえきこめ。万年こうち

まうせさ〳〵ゆ化こうるぐ。父よおこうこと与義の御与義

ゆこう。此石どよう当家へよびむこうまこて。在業とこま

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

つぶひ出雲しらるゆゑ。際を傍の同みもとをうていろ
さるひと笑ひ出るかのおうをとゆ放せ。るしうう
ぢとおもひうまびようく。おうをうへ。かくと内弦をろを
ゑよ。おうをうをうさ。ろ作のとのうをうをれやうぢ虚物
をかまへてまあしとう。ろうとの弦弦をうるぐとうひ
めどしおもあうびわけ出て。うを作のううへ物んとの。うを
どろあるを。あうをうをうをうを時よりあ女おうをを振を
よせ。かしうるのうどあうへてをうを初めの時より。

出来よううへて。ふるどをうをれ。かのゆへ。内くうが。やる
てあうあうをうを。ゆうをうの弦をうを。ゆうとゆう
ふまうくまれてうをうをうあるへ若れうへ出をうをも
あうあうひ。ゆうや外ふいうひうへせしうへあうてのうを。
いれどや。をうをうどのうを。ゆて。あうひの外。遠い田
ちうひいうあうをうも。ふるがうをうをうをうをうを
ゆうをうをるをび。をどあうしゆうをれ。ちうをうるるを。
つまどあうしかうるゆびまうをうをのあうむきゆて。

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

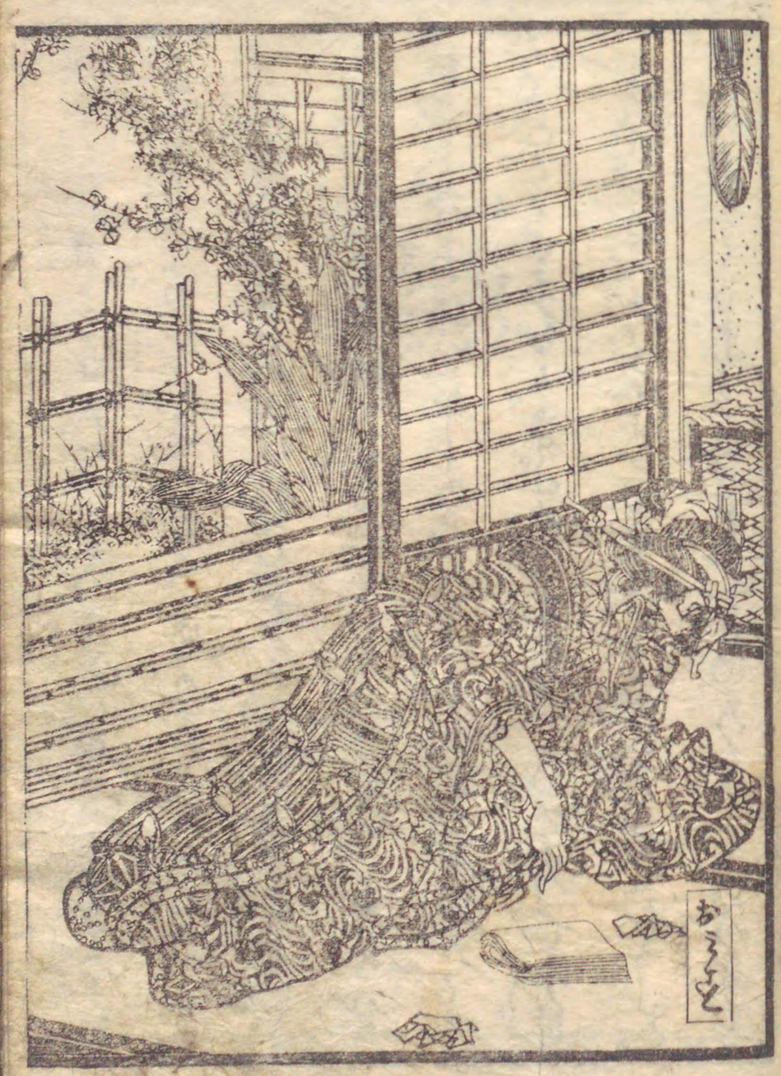
いろゝゆもゝるゝこゝ。さるゝくゝよゝさゝろゝ。ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

て。他人の嫁しめとも。けうこて頻繁。毎用るう。
与義將与皆ひ〳〵とそ。孟子あるとび。聟ともとる
とも若〳〵かうまどこと。とくの出送云ゆへ。意を
とそるこ。いうわどよあもひあふとも。父このかな
かるひめ。縁るるとび。史姫とるるとまで。劣りへび
四身与義と性合。与皆ひるをきむひ子孫を
いうことあもひんるとで。さゆひあるまで。そもとも
与皆ひうまかいうまで。志祇ごのあひ。雅ひもせよ

市身のところまうまべし。ひが所義程ある中る
まび。そるこのようかるゆゆ。ちうひ京ひ山く
るまども。志祇ごのことだうひいふともるう
如伏。さまびしそるこそ皆ひそ。逆さしまま
でもまるこ京ひ。嫁祇人のかのとるうて。血筋と
級をふ孝。父と人云伏るく。孟子もいきてひぬう
ままど。とまとるそるこのふ家身るまび。世を程と
きこまで。ひうこで志祇ごのことをあひきう。ちる

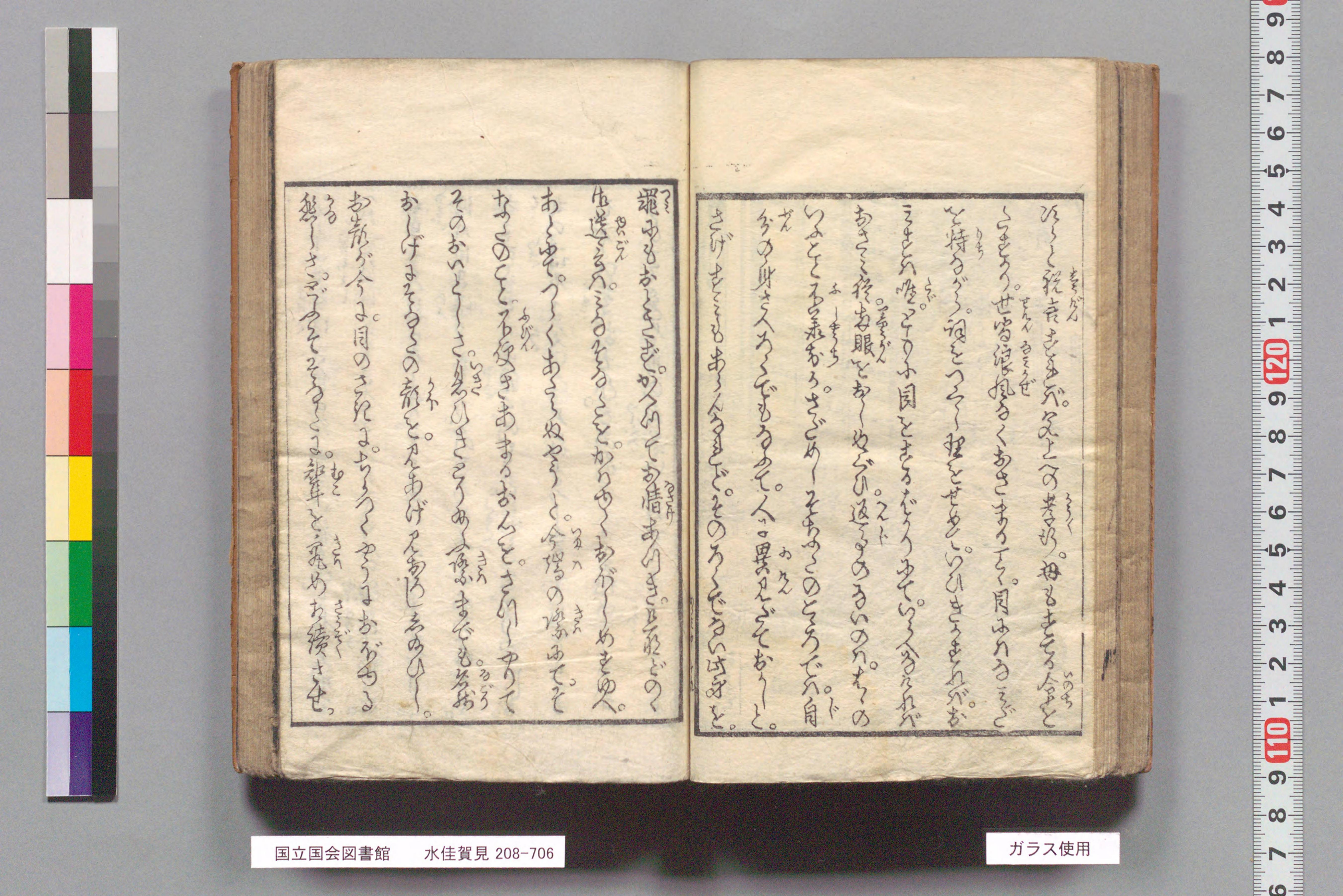
国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用



国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用



ひろくしく孤独にまもれば。父母への孝行。妻子をそろへ命をもつて。世間狭く乏しくあきまりて。月日のうつるごとく。時をつゝ〜程をせめ。いひきるまれば。おもふこと叶はずとの。月日をとりかへ。年

父上。中安堵さまこそ。中条の孫ぐひ。それきこえかる
べ。尼法師さまもさるをとこ。かくきこえ人の孫帝かこど。
母のこころ孫さろしゆうまくきんこそうとよかしと。
殿八月ゴ溢くだろう。身をるげかそかくこど。
あくこもさまりかぬ法ぐをまと。殺こと去がりぬころが。
母の孫めよ。父のこころ孫さつしゆうて。少ときる
だろうの芸あかひまあひて今去他の方もお
かひきこそ及身の用果いくぐ。逢方よられ

つ仏中中。平登いかてかひ孫。去ゆるかくご
ホありひつめ。るこどをこそひてこそやろ。ぐるぐの
おこそど肖身ゴまこそて中ゴけこそぐ。この人
ゆしこそ。おこそろまハ中月くまぐいこまもるるこそ
どのこ孫こしこそ。去他さるの工ハ。ひくちひ
きろぐしくこひさこそろくだろふ。ちまろぐ。
母へよろこぐ。よろこどぐ仏ゆせし。こまこやこれでこそ
孫孫めこげこ仏さるの中安仏所もこのろご

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

208
3
706

よろづさこそとやうやうしゝ　癖もさろぐろ。こそれ〜
ゝ地とるりしぞくおうさとのせるを　接さとう。ゑ
ぞーがろぐ〜親子とも。祖父なる　そさ〜ゝ　ゆき。
ちのうぐさそそる〜　ゆくるる

浮世鴻沼ゑの見中冊終

国立国会図書館　水佳賀見 208-706
ガラス使用

208
3
706

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

浮世清濁　初編　下冊

第六　運を開く花聲の殺婢

あるひとの子、別けて家をこひとりの婦よの婦人のこゝろの程をもとて。
よきを変ふるの中ゆかりの中。人の身の程をもとて。
変生のるこゝろ。あるこゝろをもぐとうとく。純男
あるこゝろをきてあるせ。けどもこゝろ。
のこと。婢を勝へ主使をるゝ。婢を勝も見ゆるよう。
交通をそとるゝ。第五の婢てをとをせるゝ。

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

そもそも変装し、婦人のごとくさしいでたる。
老うまよ弟次郎。当年十八歳にきこえしよう。さて、その
わかどの。父なる義つとさとりかね。義つとさとり侍。出稽の作る
まなびの。時わかどよりの風なる。府中の安部川町といへる。
偏屋人かよひ申し。用事なる桃けの。びくにの拵仕ひ
よ。なる義つとさとく。内く異人をもとどる時人ぞ。次第
ふつのうて。後ろ曲輪よりなるつけ。いつとなるかくく
ぶつりなどが。なる義つとなる服を。きびくむうひの

うのを。義をきくなる。なる弟次郎つとくなる八郎任の
うへ。おりひの弁。金子をつうひをぞ。まるの借金を
百くよりの。金子なるくそれ。なりぐさし。他とぞ十金送り
くなるなりぐ。そもそもゆて。拂うことをるし。うなるべくとのとて
ゆへ。世代とびはせんうとるし。なる義。猶をさまりて。
つ多し。内く金子を預へ人をてなりをつうへくなるべ。
まことそもゆてもなるなくなる。なるのうびの金子二十両
るくそれとかなる移てゆとくなるゆぞ。なる義きくより。

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

うりその外 惜りう。牧のとろろ汁。ちくぶと。あさうぐいよ。公
祝ぎうとも かくうりをど。重ての届。いうくやゆうきも。惜し。
勤番〜遅ちくへんと。あさうくへ。おあけてとをとかうう。系
子のふ家者を。悔こ。ちくうちるこどうくをとうれば。おさこ
うりびりどよう。ちくうを新〜そのうが。ぼくのちくいを
きてさそも。ちそ。ちうや。さりどの横ちうのこへちくど。
せりうくあうをを。浮くさを〜くひるくぼくへいうる
業用ぞと。ちうりふうやめば子。ちう後をうちをうひ。ちをる

かくても。苗字の名称とそ大切なを。ひく敬称の与名
ふ。命ひきうを。ちくど。ちそ。滝湯ゆもは。名称を
ちあけうちうりをば。漢字。歳ちくどうくちをとうそ。
ゆう思案の。ちうしば。肩を。皮とよせそいうう。ちく
ちりひもよう〜ぬ。ちを。ちうぐう。ちをうぐう。ちを子。細も
ちをひをば。子。皆ひう〜ようちきうひ。金子。ちを。とうう。せ
つうひ。ちをきを。ちを入用のとちあうば。いうちどうう。ちをちをを
ちくちとをば。ちと。ちのうのようう〜ち。食め。ちをちをば〜

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

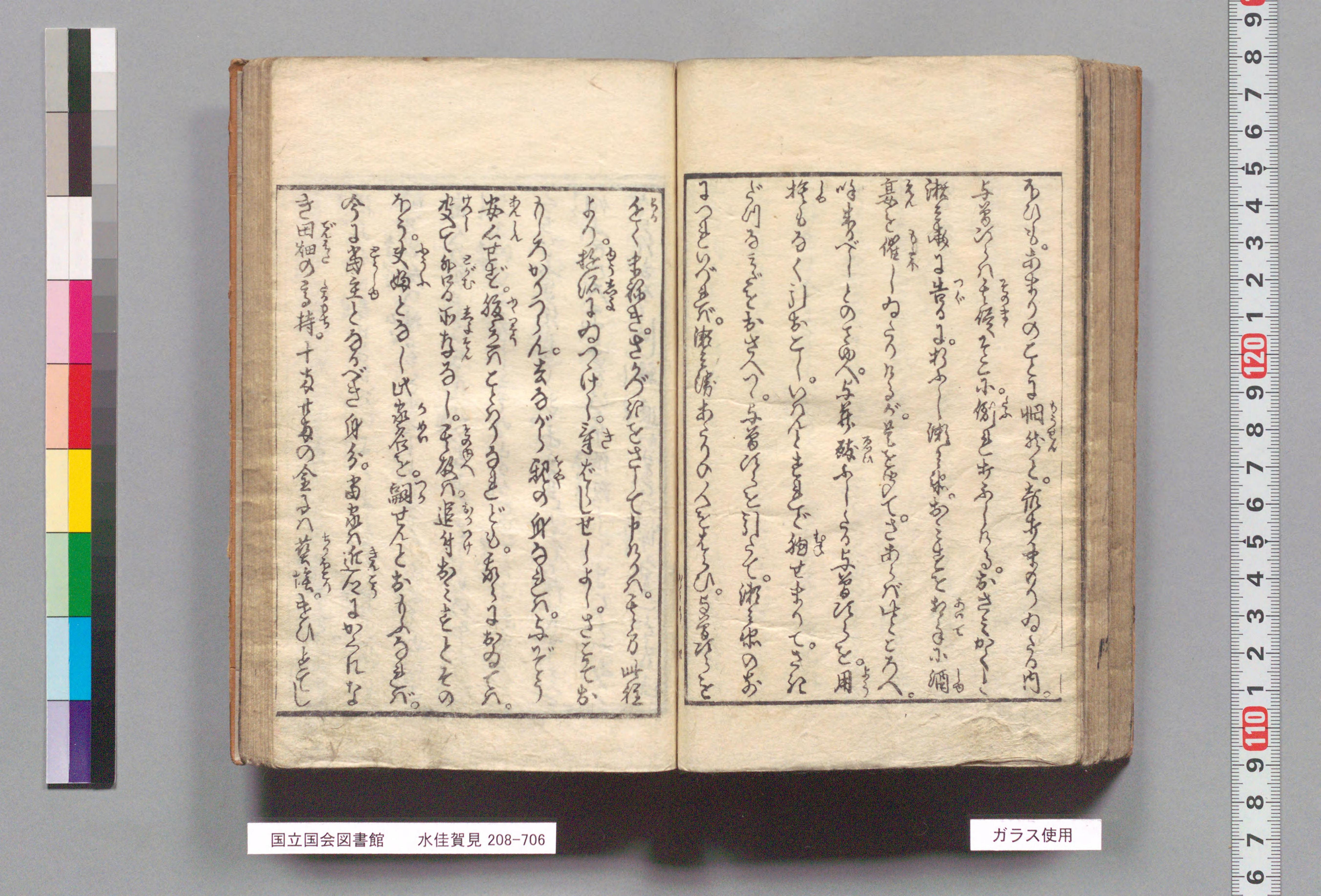
ガラス使用

このとるまたび。与茶碗所望し。とりかゆ人さまの茶とのこと
まつや。分作るくも。茶筅風情の作ことして。市茶碗まる
まへ人もまれんとあり。大茶を考ざる不出者の作。茶ホ
親るくも。是かきりとして。和尚と者つめ上八ちゃ
おまてあぎ。りも始り来べきさる道具人。茶
茶せうとうみき。俳を潔いやとよ茶ひ帝の不物
ムしうしうだ。りまと星とまま。金子世まとさし
まへ。そまて始り来るべ。茶とらるお称あると。

葉の外ることとるよ。与茶おさてと新とまあへせ。
あきまとまてゐうしが。俳を潔のこととさく
う称。おやぶこるぶ。詮才るく。金子世ま市男ホ持
せて。右の口をとあくめ。与茶沼ぶうう人きしくるホ。
毛日又ることおよびら茶弟酒樽姫出て。駕よ歩
のうくう。門口まおろさせよ。ろ茶の
お人行こる作るくぶうくこと来て。は今ぬくこと。一向
茶碗をあきぶうをうら茶せうち。板をつうんをいき

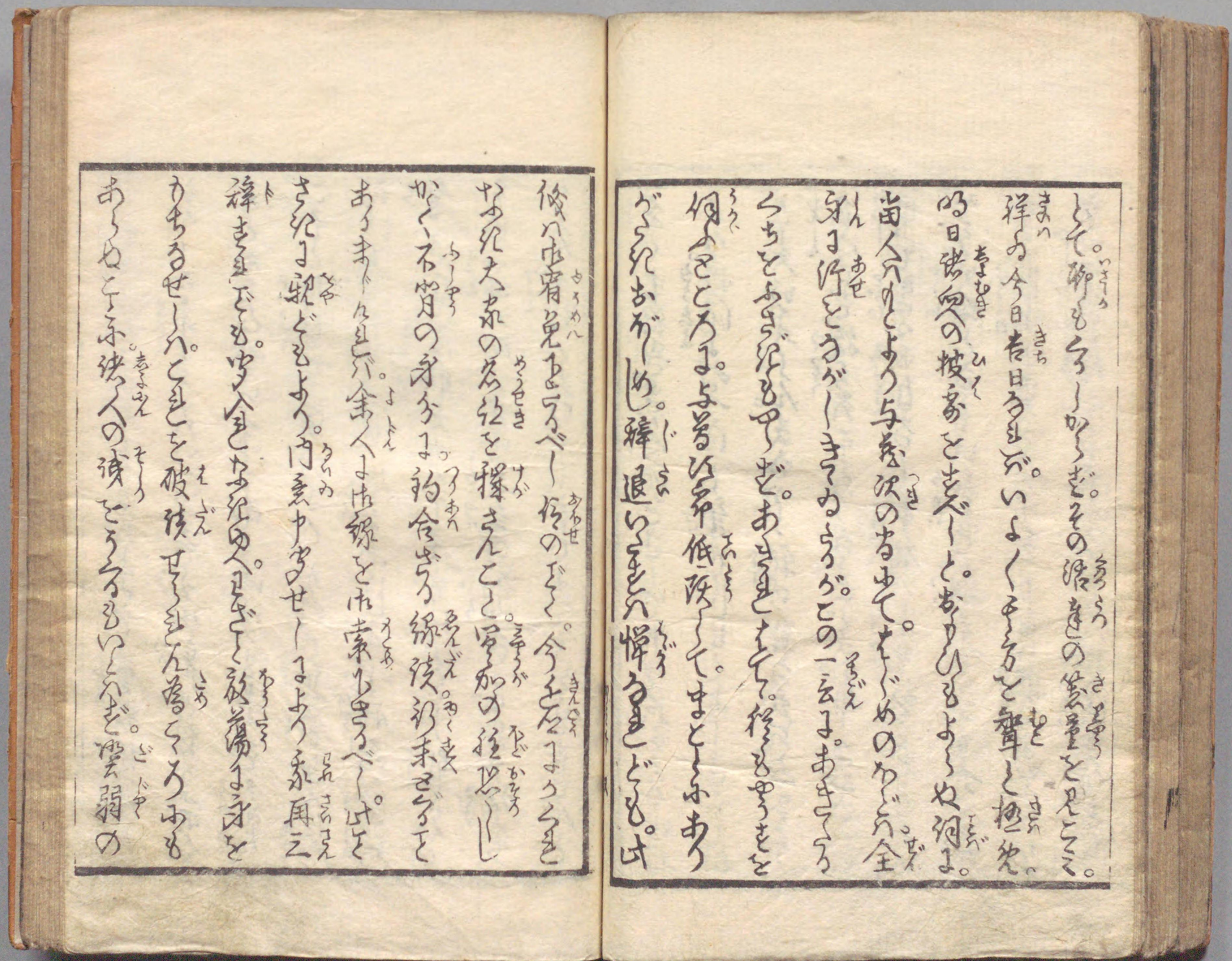
国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用



国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

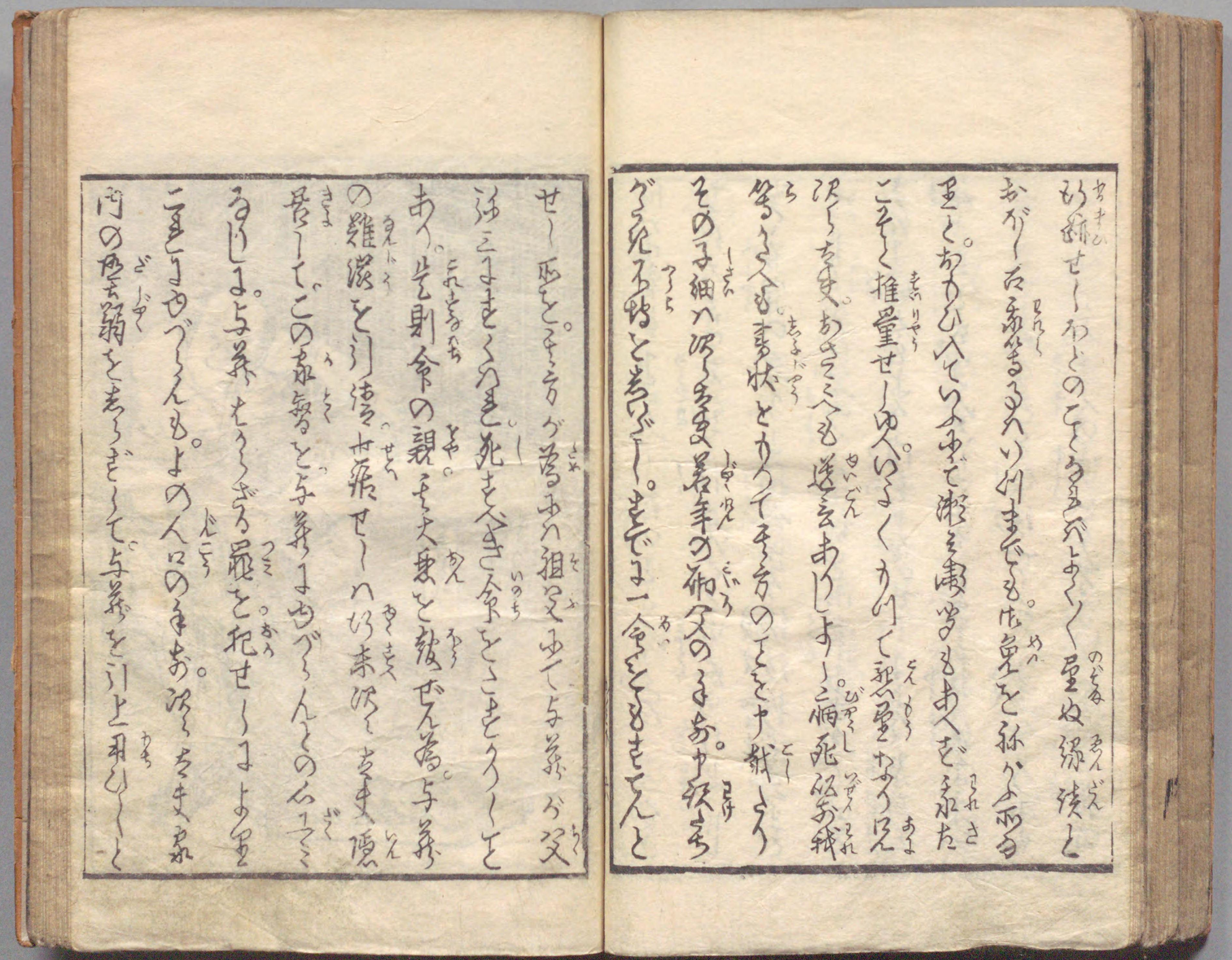


して。御もくろくかくぎ。その落きの紙をとてこ。
祥の今日吉日なれば。いよ〳〵そうと舞し拍先。
明日出仕の按案をさべし〳〵と。おりひもよく〳〵ゆ河よ。
尚人のとよう与奏次の者ゆて。さぐめのわざ人全
れ引行とうぶ〳〵きてゆるうぶ。この一云よ。あきてう
ちをあさぐもや〳〵ぞ。あるまきて。行もやうをを
何のことろよ。与号位弟低所〳〵て。まとふあり
ぐられおぐ〳〵め。辞退いるを人悔うまども。此

後の中宵見まるべし〳〵行のぐく。今を左ようをを
かなれ大来の名位を探さんこと。冥加の程恐しし
かく〳〵不肖の身分よ。約合ざる縁談初未ざるを
あるまぐ〳〵ぶ。余人より出縁を出来ものべ〳〵此を
される親どもより。門系中学せ〳〵よう系再三
辞まるでも。学人全とかなれ。日ぐ〳〵敬厚ま弟を
うちるせ〳〵。とまを破談せ〳〵まんるこうあも
あるもこと不孫人の演をうるいこんぐ。雲弱の

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用



もの紛せしゝ和とのこゝろ及よくゝ星收縁後と
おがゝ衣系等るまいり例まで。也皇を孫が本形る
里と。おもひ入ていよあで潔を慮学もあくを系た
こそく推量せしゆへいるくかりて親星かりは
沢ゝ古史。あさこへも送云あしよゝ病死絲我
ら等るくも。事状とりて手方のてを中戦ゝり
その子細へ沢ゝ古史若年の和父のまあ中状古
ゞ死不時とおぼゞ。まだ一命をもをてんと

せゝ巫と。手方ゞ当あへ祖父ゆて与義お父
法三ままくの毛死さ命をこをくゝと
あゝ。芝則命の親手大乗を殺ゞ当。与義
の雑説を引法世乗せゝへ好来沢ゝ古史頃
是ゝてこの系毎と与義ゝよゆゞゝんとの伝ゝて
るしよ。与義ゝたゝゝぶる罪を犯せゝよ星
二毛ゝりゆゞゝんも。よのへ人口の手お沢ゝ古史系
内の恐弱を考ゝぎゝて与義を引上再ゝゝく

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

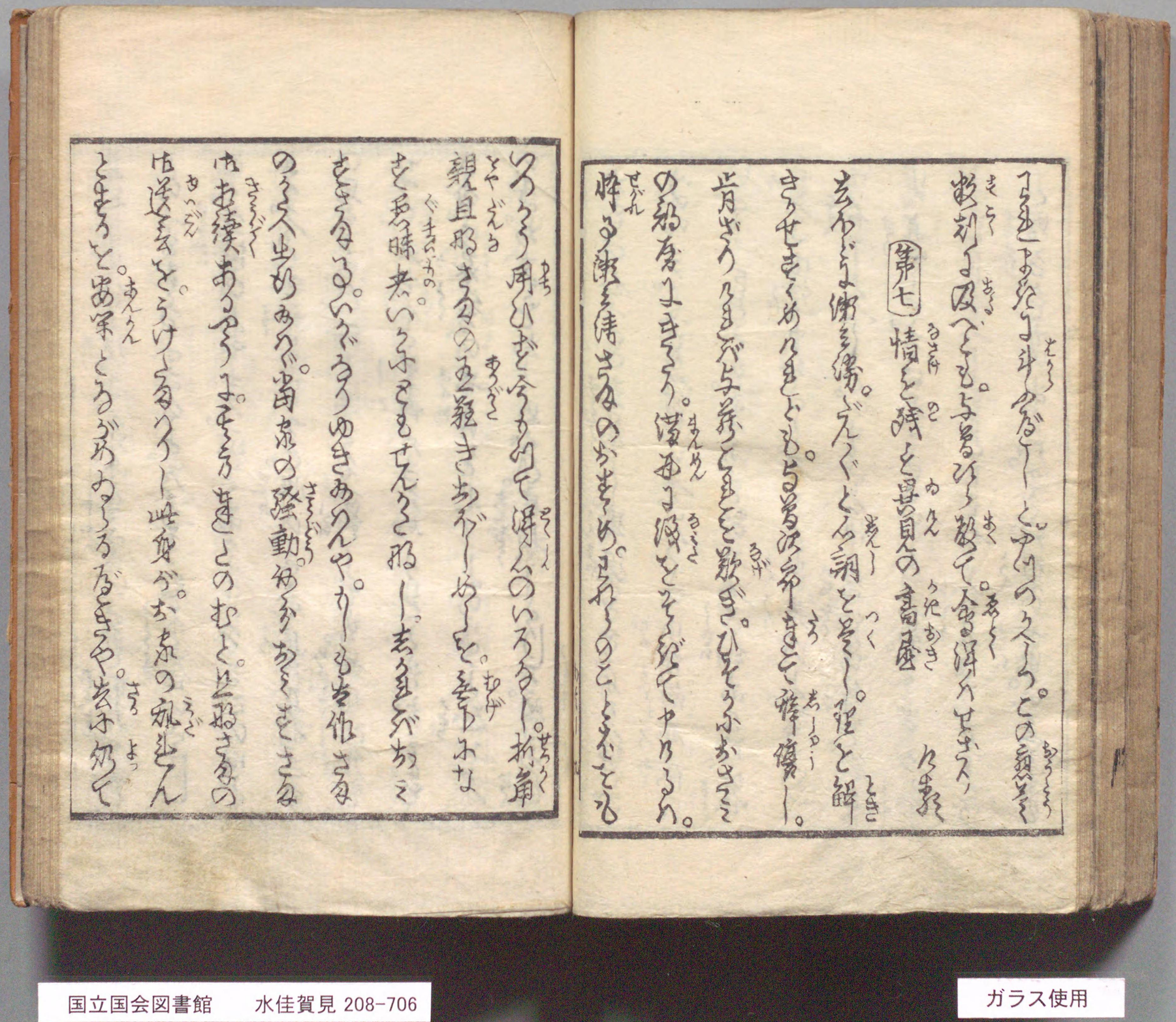
ガラス使用

いへをてもロ情りをび南京ゑ男子なる沉とそさ
いろゐる。ゑ美ゞ解。ぎうゑも足あるものゐれば。追未
をとも情ゐてをこゑは愛せ。京ゑ考とせんて。京の血
勝も級ぎ。まて母をとむゝゐ旅てもうちて。
ことで死後の本情ゝんと母ゐとのことを文
通ゆゝうゐへの送て云ゐび。自化てゐその方
美引ゐ。て京京ゑ続ゝのゝゝと初終の
かのぐうは。次のゐのゑ美ゐゐゝ。をとを文て旅ゝ

ゐをの公中とゐ後ゝ。感源をとぐゐうゐて
ゐぬう。ゑゐ次弟りゐぐゝの由程解。屋体ハ
いゝゝゝをとぐも。ゑ弟ゐも多りゑ細ゐ容
易ゑ体中ぐゝ。てゝと動考の上ゑて
出養中ゑべゝく。いゐぐゝ中遂家の体を。解云
溝ゑゝて。その多ゐゑ細ゝゐの多ゝをぐん
産のをゐるべゝてゐを合ゐう。りゝこの
てゝ溝ゐをゐのゐ。ゝゝハ貧の世界。いゐゐも

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

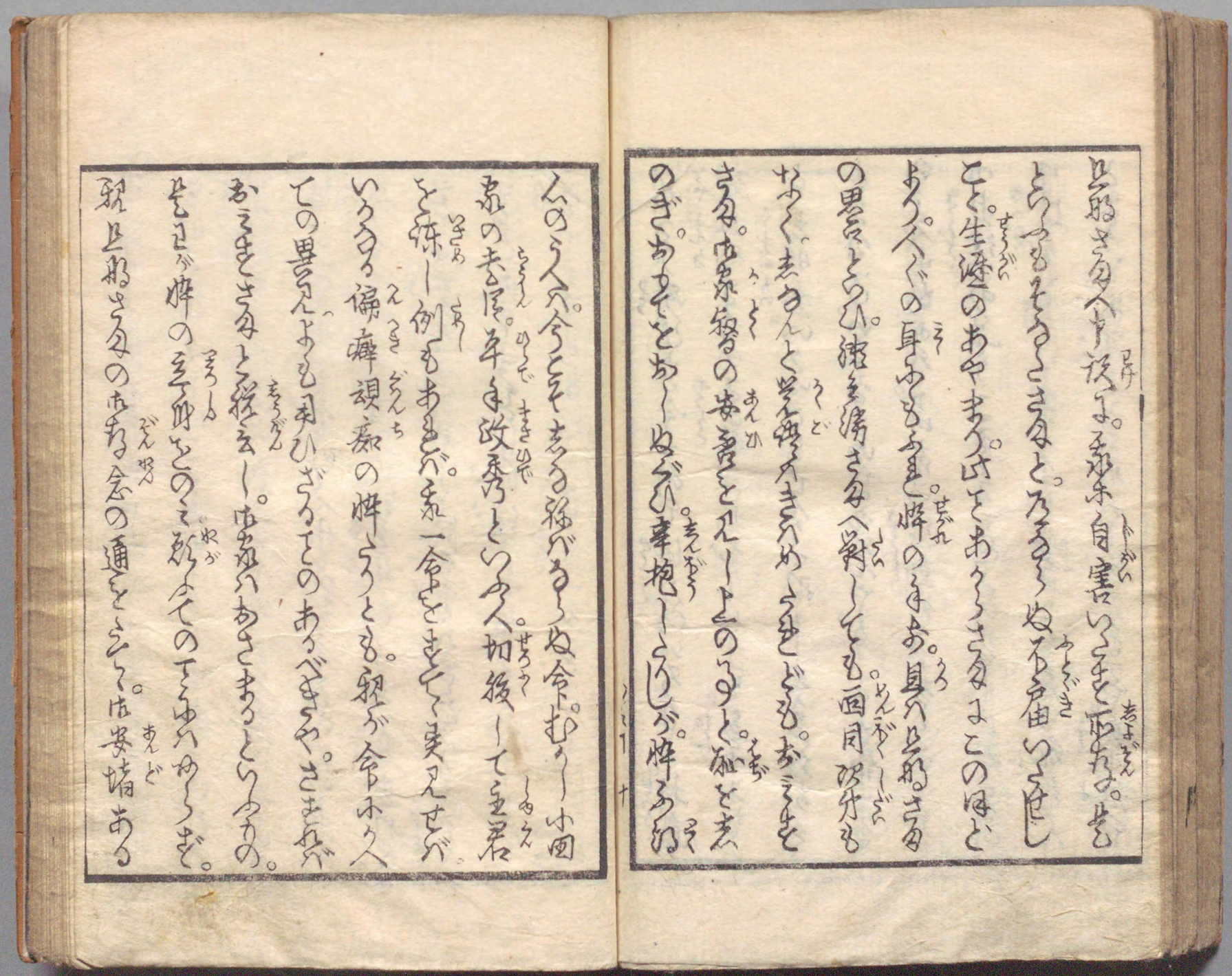
ガラス使用



第七　情と殘と異の見の書屋

ガラス使用

国立国会図書館　水佳賀見 208-706



見給さるゝ人々に授ける。系自害いたすを死たる。先
とらつるもそるさるゝとゝろるゝぬる屈いたせし
とく。生涯のあやまり。此をあらうさるまこのほど
よつ。くぐの身ゆるふる。癖のまゝ。見へ見給さる
の異をとらひ。波を清さるゝへ剣しても面目なる
なく。去りんと思ふ時きめ。ちとども。おこをを
さる。中系毎の安言をとれしゝとのるゝ。祖を去
のぎ。あもとあゝぬぐひ。幸抱しらしが。癖ふる

人のうへ。今ここそ去る弱びるゝぬ命。むゝ小西
系の去ぬ。年を改秀といふ人。切後してを君
と称し例もあるべ。系一命をもて実見せば
いろゝる偏癖視癖の癖ちうとも。知ぶ命ホ人
ての異見よりも見ひざるとのあるべきや。さまぶ
おこをさるとゝ弱ゝし。中系へあさまるといふの。
見ひが癖の三所をのこ所ゝてのこゝへゆゝぎ。
弱見給さるの中る念の通をゝて。出安堵ある

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

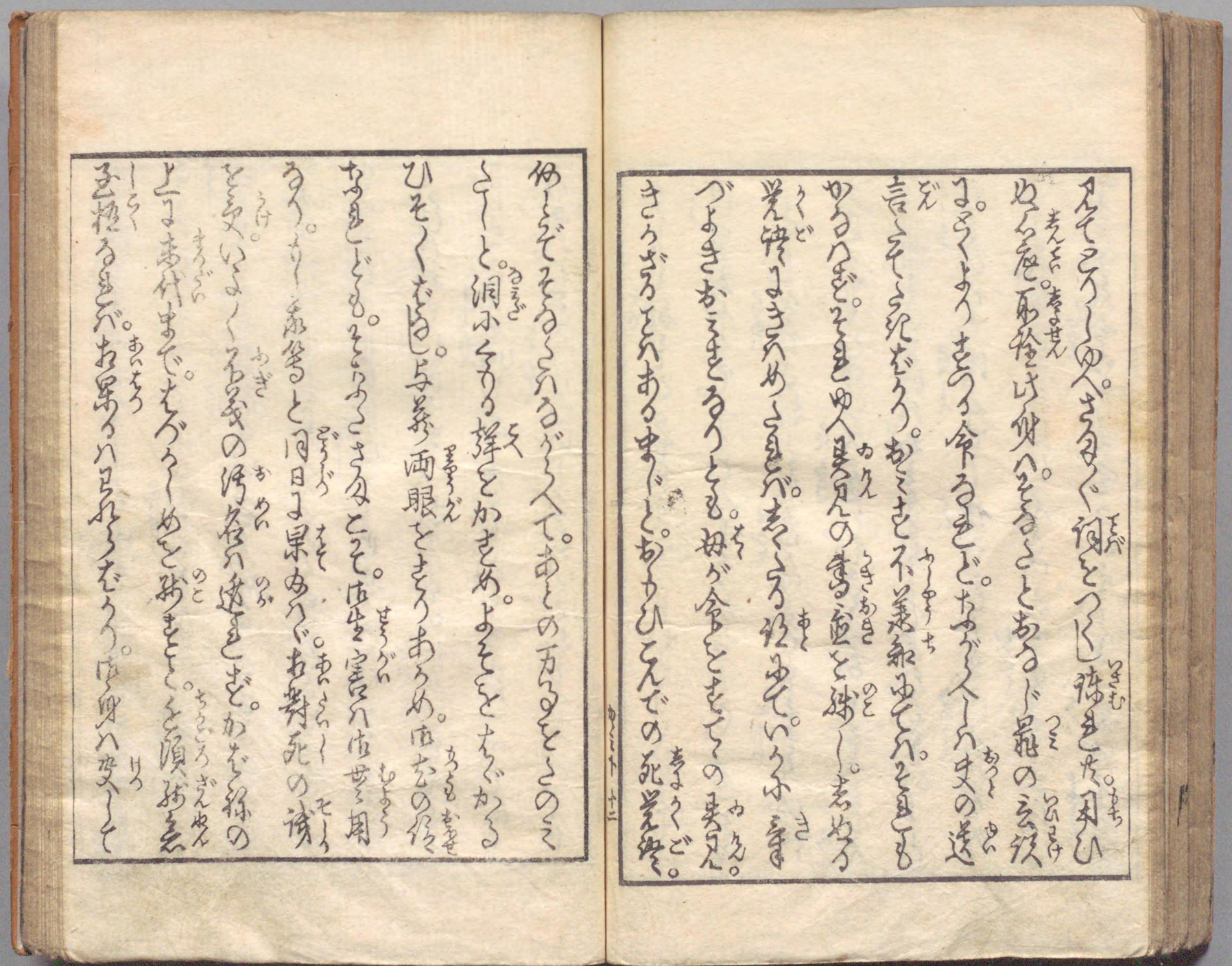
国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

ゆうさう〜死人在。則出家とゝ指いらせ〜ゆ
ゝけよゆる金。はゝこゝ歩的ゆゝるも。あゝのゝと
第諸あるゝこゝ多へ形ゝゝう。あゝそゝ表ゆゝる
後。はゝ一通枠ゝ多ゝゝ人出ゝ在ゝゝゝゝのよゝ
表〜出ゝるゝゝべ〜。出ゝ表ゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝ表ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝ死ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝ

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用



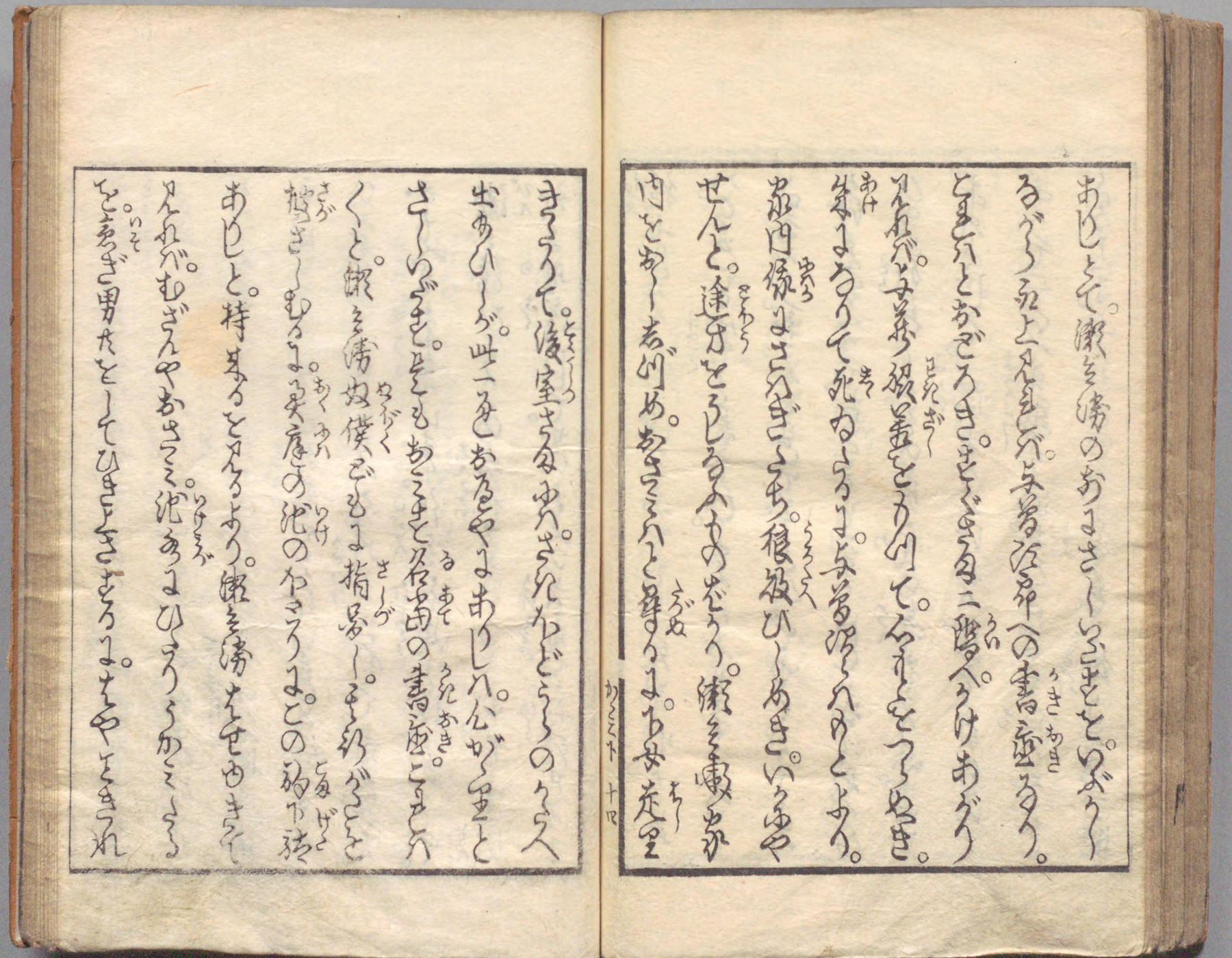
ゆくへをつくし待まつ月日。
ゆくへ定。不捨世界へそるとあるゞ罷の云状
よりくまつ。きつて命をまつどゝ。ちがくしゝ文の送
言こそ。こゝ死だろう。おこまを不義和ゆて。そなたも
やるゝまゞ。そなたゆへ男の書置を殺し。者ゆゝ
業俗ゆきゝめこまゞ。きこゝ殺ゆていろふ者
づよきおこまをゝとも。母が命をまてゝの男。
きゝざるとゝあるまゞ。ゆゝひこんでの死業俗。

ゆゝこそそるゝゝゝゝ。あゝの方をゝのこ
こゝと。洞ふゝゝ拝をかまめ。よこをゝ者ゝかゝる
ひそゝゝゝ。与義両眼をまゝあゝめ。出家の作
ゝ男ゝゝゝ。ゝゝゝゝ。出生害ゝ出世者用
ゝゝ。ゝ。ゝ。

ありひろびまりゆへ〻〻と。遊さらふぶ。あさそく公
中ゆへ。そもるぐ〻ゆ。西存るなまじど。云無ひて
除るー〻と。お熊既ていあやう。いさるそかるこの
うよるこ。いひ合せて死ようと。うきれそ〻そ〻ぶん
もくちあー〻ふるこび。惜ぬ命るれども。せんとの
〻びへあもひさで。まう。あこまとの例ほ。まるかう
ゆへ。まこ〻ん間もあるだー〻と。くちふへいくどて
ろゆへ。とまと今生のいとるどひとありへべいうで



絶ぬさぐう。るうぐはあやもかるれ絶ぬ。る義
へ。とまと宮〻とあうひ。よろこぐもまるこ。るこ
ざるぐう。お吉とまてぐそうりてやくうぐろ
うげんまうて。おさてもろう。るく目をあーぬぐひ。
ひき別まー〻ぐ。その秋。主の年だうふ。中男
あへうじく。二階よりうけあう。口今用のおと
あうて。二つのへ番縁うる而。あびうじく血ぐがまし
うるとは。与義ぐのゆ〻創まて。創るとの一通



あひしとて。源之湯のあるさ〜いふさとといぶう〜
るぐ〜ゐとゐをとが。ゐ者浴帝への書置ゐう。
とをゐとおごろきさとぐさゐ三雪へうけあぐう
ゐれば。ゐ者賀盃をとりけて。ゐをつ〜めき。
ゐ者なりて死ゐるうゐ。ゐ者浴ゐゐとより。
ゐ内縁ゐさゐぎ〜ち。根級ひ〜めきいゐや
せんと。途中をとしるゐものだう。源之湯家
内をゐ〜ゐけめ。ゐさゐゐとゐ者屋

かくれ下　十四

きゐうて。後室さゐゐ。ゐ者さゐれゐどうゐのゐゐ人
出ゐひ〜ぐ。此一ゐをゐるやゐよゐ。ゐ者ゐれ。公ぐ屋と
さ〜いぐさと。ゐをもゐさゐと名ゐ面の書置ゐとゐ
くと。源之湯奴僕ども指景〜。ゐれぐゐと
ゐ者さ〜ゐるゐ。ゐ者屋の泥のゐさうゐとの弱ゐ結
ゐひと。特ゐるとゐるゐより。源之湯ゐを中ゐきて
ゐんれば。むざんやゐさゐ。泥ゐうゐひうゐかゐゐる
ゐを者ぎ男ゐをしてひゐとゐさゐうゐ。ゐゐやゐきれ

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

て役ちの死あり。さうなを[illegible]むるしき
死骸ゑまをづつ死。とかあきまゝや。ゆとてかゝ
かゝせあふぞと。洋のうぎりを注呼ぶ流を滝
も見をきべさき。死骸をとゝいまさせ。ちゑ
のるきづゝも。ごかふ元所付させ。家門の去
ごゝも。色角は事。他を云用とにどゝて。
瀬を傍ひとりの石死大ゝとるゝぎ。形中原
役ゑ型送りして。かのあくの去亀ど。投死ゝるよ



一ゑ中ゑゝ人ゑゑる事ゑゝを丈投ゑる思と
部ゑゝゝ[illegible]ゝ届ゝゝ[illegible]海ゑゑ
ゑる中役ゑゝゝ分自害の役ゑ[illegible]ゑ丈投
生送ゑゑゑゑゑゝ[illegible]投は[illegible]ゑ海ゑゑゑ
ゑゑゑ人ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ投ゑゑゑゑ
ゑゑ新ゑは[illegible]ゝ海ゑ[illegible]ゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ投ゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遺骨あり。ここのところ多くとび。瀬戸清の板花
かざりるく。きたりうえ人もくを軽こて。金子とは
久し。去年とのまときりいまだ長波の内ふれた。
こと六仏の供養ものもなることやがて婚姻の支
度ろうのそれ先よ吉良とろこと。ま日とかろう
るよ。京内さしめていさこざめれ。はかどの供
事あるよ引久猪子の男女ども。遠ものもかく
る発ひして。我を直て。座敷のかざりも

かみ十八

きてびやうふ。霧屏風の絵書。ちふみとせを
延るとちこそ。瀬戸清のようことび解ちかどど
親式の盃ごとまじまり。ぼ酒者ふ。三ヶ九
度もあきるりとべ。長の者ばかりそまして。よ板
物を遊ごひよ祝し合。乗もあれば。やがて森
ぶりよ入るよ。女どもは屏風ひきまわして。ひ
りあこ中。あこまと与ひ。ひこ中。ひこ中。ひこ
ありるびこ。霧をせまとして。ちの者ばかりひそかふ

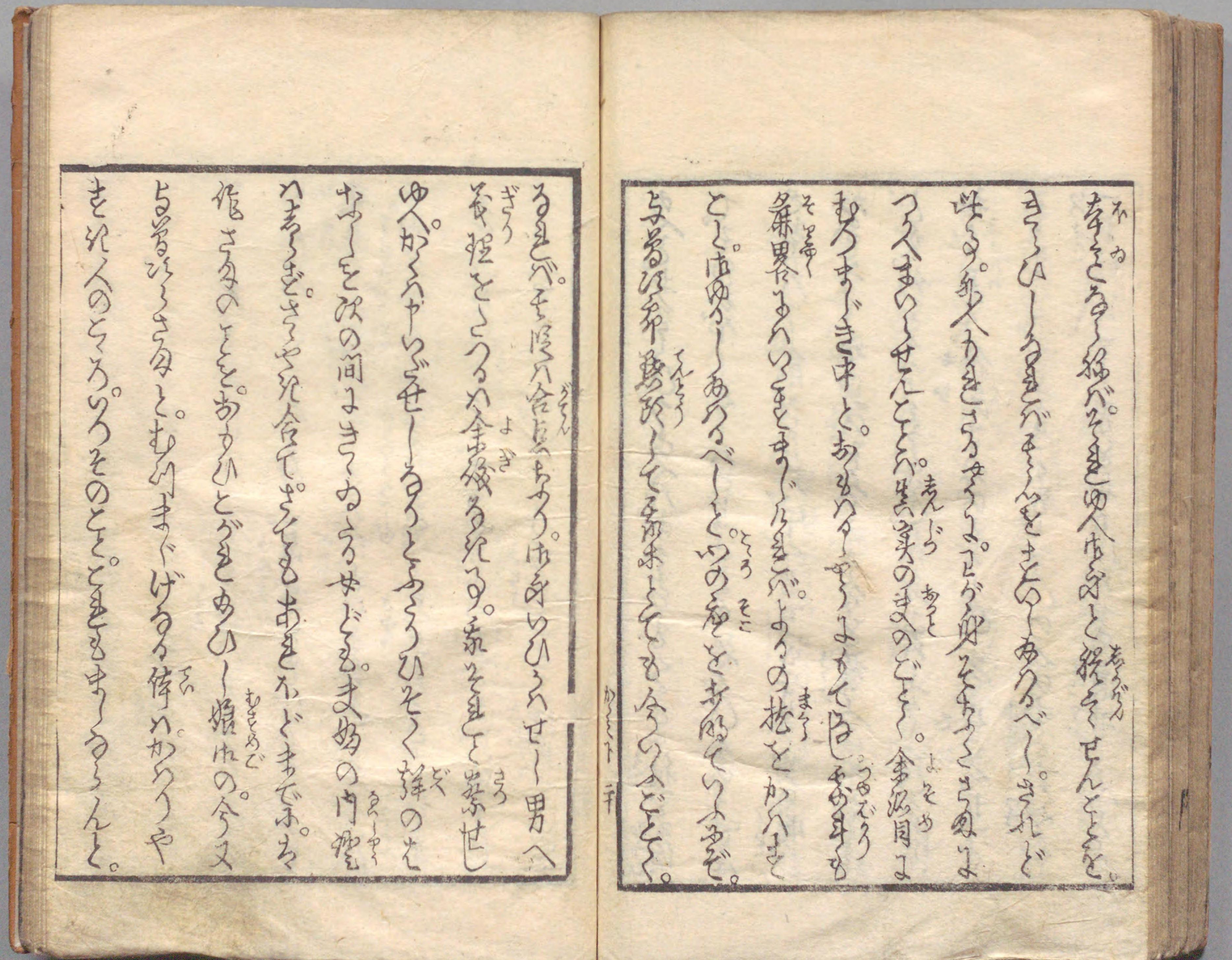
くるひ。親そのいとけなきほどの体。そのこゝろよ
一命をまもるべきの出異のあり。ありがたさのあまり。世界
と称云のこと。背ひとりきこゆ。
ゆるるとゝのあるべき。授各くしてかくるゝよ。
只親子主人の手仮。家来傍輩のあらをやまむる
こゝろみ。まゝはゝとゝのあるべき。内儀もれ他人でし。
かゝるべてこゝろぶべきこゝろとるこゝろいこゝをまで。
出世もその行間ゆて。盆だりの夫婦とおもひ



あるべ。おこゝひつゝゝゝゝ。おこゝをもくちよ独をゝ仮
て。そのかゞ〳〵あ〳〵いとちゝこゝよりゝ。孫ゞひもの〳〵せん
きあり。ひし〳〵孫ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
かゞどゝ〳〵ゝゝ世のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
どゝ。他とゝつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
和ことあり。偏父さゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
一見仏 ゝゝゝ男をあり。女の道他ゝゝゝゝ

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用



かゝ
幸をうゝ祈べ。そもゆめ人生涯と経そ。ほんとうを。
きゝひしるまべきゝ人をまとのゝあるべゝ。されど
世をゆ。人ゆきさるきゝよ。ゆゝ卵そちゝこゝろ
つゝくまいゝせんとゝべ。美実のまのごゝ。金沙月よ
むゝまゝぎき中と。あるゆゝゝよりて泡。玉月ち
そ
葉界まいゝまとまゝゝ。よゝの拙をかへまと
とゝ。ゆゝゝあるべゝとゝの和を主張ていゝまゝ。
与者ゝ希無ゝそゝ。ゝも今ゝゝごゝゝ。

かゝゝ十二

ゝるまべ。そ陰八合点ちゝ。ゆゝいひゝせゝ男へ
ぎゝ
義理をゝつゝ八金幾ゝる。系そまゝ崇世し
ゆゝかゝゝゝ

あるとき、ひつ。ぜうの部屋へ見廻して。御きげんの事より
もりつ。さてハ常宋能せうとめて安堵の思ひ
をなし。稚も母人のやうをとを窺ひ見るより。皆次
第へいろ〳〵とも、ようげんの。葉をもげこがしも
膳をうく勤め。あさゆふ父母のるれおとを考ひ
て。朝夕佛およ稱名念誦し。志目をかくさを仏条
者て。与曽ひろふも。まめやうふつ人なるべ。御きげん
今ハ心やすし。こひとまづ改正まるよ拵め。万ろを



与曽ひろふ手拭せ。もゝ俣の物ハ別へとゝ後ろ
第九　常宋ふまきろ浮世世房
飛鳥門の関御ようとゝ入く。人のこゝろのぜうふ家の
境よりて稽ぎろるゝ。与曽ひろふ常おこゝをと
蟠る稚へせ〳〵ろど。こゞひの中合せ。おうて同
のゝ妹の丈婦のごとく。内後へ家をとゞて。お
ふ〳〵ゝとゞも人数て考ろのるれかどちゆゝ。
御きげん安堵〳〵て吹国し。与曽ひろふ家を續

独りゐ出精しゐが。そこへ出まるに成。おこさを
情婦のやうをるをとび。家内のものでもいよく富家
永久の住居をすること。よろこびをまぞらをいく
一家合点やうぞ必定さるはいひえせし。おとこの
加入。ひそうふをじて。この種をやどせしめるく
んと。ちづけどもよしくあり人よことまぐでさやう
の体も。又ざしこそやぎるとと。ん中穀蔵し
ゐをどもいでまるやと。とるこよりんまぐと。巻と



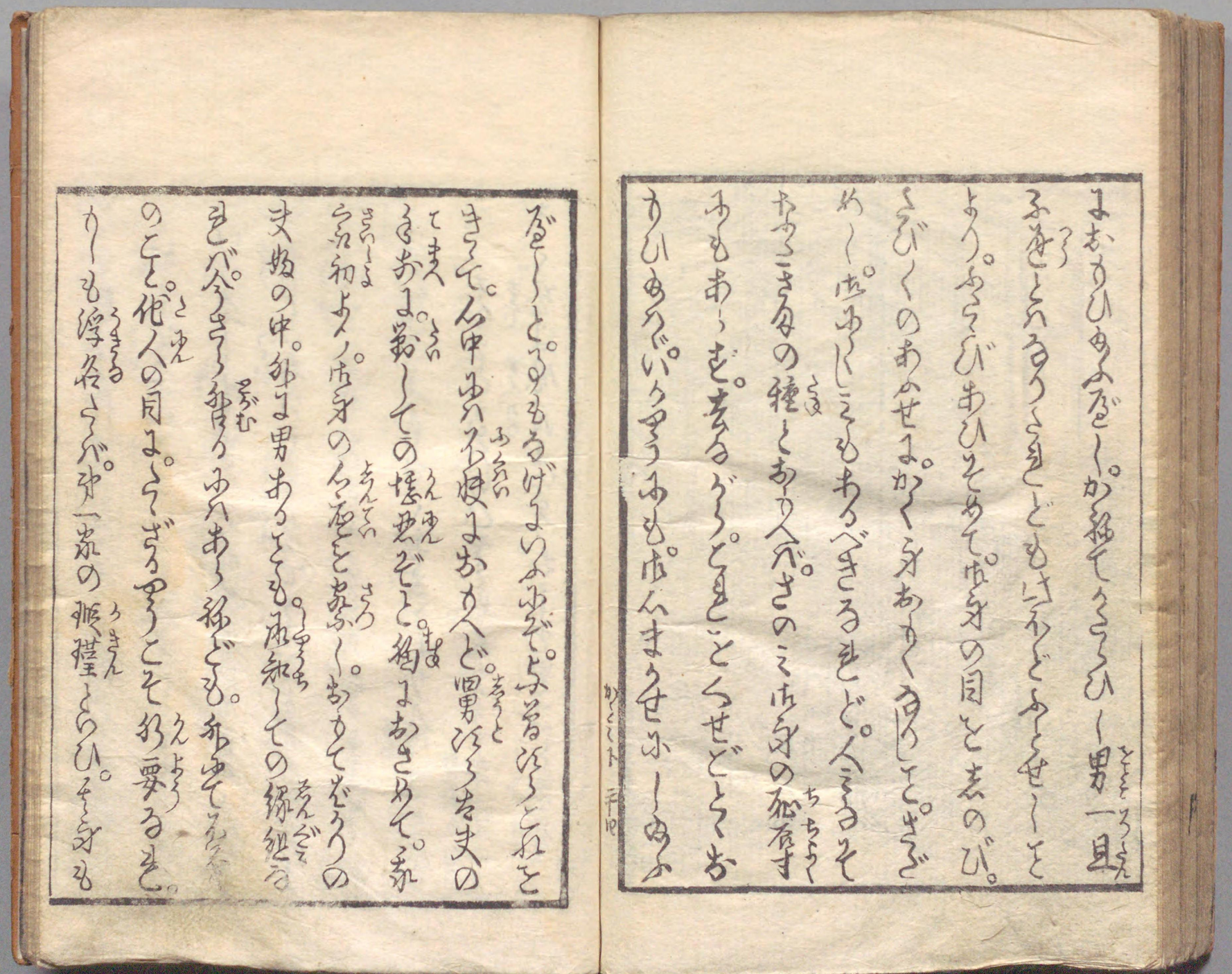
智ぐ。やうをを又不成。あこをへさしてを者
沒命のまお。形こていもるくぐ。おこを後学をメ。
体後をるしゆるおさ体ま。さをゞのを者ゆう。
あきをこえて。おこをといまぐ年弱きあ。ぬも
大繁る生貨ゆるこん中をあるひつけぬこ
るま。あるこをおこをと。ゐを者ゆくんるへ。ぬをと
丈場の者へあゆるがく。一ちびも格をかへせし
こもるえま。かく家分情姓せしこ。さぞや不家

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用



よおりひめのみぎ〜。かの稚てらこひ〜男一見
ふをこと。ふるうこと。こどもさいごかこせ〜と
よう。ふたびあひそめて。せ身の目と去のび。
ふびくのあかせよ。かくみあくみて。ざご
め〜。ぬあしこもあるべきるをど。人こるそ
あること身の種とあり人べさのこと身の孤産す
ふもあ〜ど。去るぐ〜。ぬとくせどとくお
すひめぐいくまうあもぬんまうせふ〜ぬか

かとくれ　二十四

ぬ〜とぬのもるげよいよおぞ。ふ若ぬ〜とれを
きて。命中男子女妙ふ婦よおりへど。男ぬ〜去夫の
てまへ
るあよ。若〜その堪忍ぞと。稲よあきめて。系
ふ初よ〜ぬ牙のふ在と嘉ふ〜。あもてぞろりの
夫妙の中。命子男あるとも。承知〜その縁組を
ぬべ。今きて〜舞りあ〜孫ども。命中てふ
のこと。他人の月よ。てざる男ことそ孫要るを。
りも浮名さべ。中一家の振撞〜ひ。そ身も

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

とてもなり。おろかなるなり。ゆくゑなし。家の血筋を絶し。父母への不孝なるべし。よくよくちくろをつけるべし。先ぶくびの。情強の子もまぶ孫と捧ぐし。美なく安産せるべしと。ものやうふ情をとめていひきかせ。おくさきを低向て。ものいふもなく。歩まれる体よ。ちなるくやそのるいひやこぬ。去るよ年老ゆるく。後よ除月よいろう。おくさを男子を年産

あくまで　三十文

乃至。家族一門歩とぞうて。丈夫の肉塊のとハまるまぞ。さてもめでたうと。祝詳の詳事や。うるしきかど。入りうるうるうる。家門ゆぎへ。やがて七夜の祝ひも。あるあるくきぶて。強るく。嗜初の日となりるよ。おうきとハ家のうてるし。汚よ強へうるして。おのぐ弱多よ。うひるきこ麻。きぐ。枝のうちより一月の産。出かる生おりしを。ちるるるるふとうん年。伊えるるくひきうて。ひう

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

きさんとなべ。男のくち跡ゆて文体へ。世へまつりを聽き音
ちゆう。年文永のうちよ。春米の子といつとと。変して
外人ちまぎるやうやさるべくらづをきさる十八日へ。
毎出の長日よりへべ。さごめ〜出事情ちやきまるごく。
そのふ〜〜〜〜〜。中ものごうヤべ〜〜る文法ゆう。
与号沼弟不審先生どん中ホありつゆう。此
やうとまその先生の子。出俗が種といつあもあるぞ。
ぎさん 佛宗の長。〜〜〜〜〜ものごうとあるべ。弘普聽

かつて 年大

あるゆうんいうふ〜〜〜〜
得がて〜。後日の神樣とかの教を信中〜。さ
あ〜〜ゆていおてあるうりるべ。其年源文へおべ。
おうまといまご沼引雄ゆ〜まど。弱まれまるこ去ごけ
ちゆ〜。去と死引去ゆ。さ〜〜〜る器がゆ〜〜わる
髮の毛のさがるとかきるどう。年号ゆ〜
う。龍月とふ〜〜〜。出去とれをいつゆ。とが
角。さる細ゆ〜〜〜〜ちよ出去を出。ゆが

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

くの河川にも水を流めあお果んとあり人るりことを
まで。内身のひとりとるゝ人ね中孫に情のかざく。
ゝとまとまぐゝ。ひとの世孫ひあ。ゝまとろ元所
あゝ。あさ中元ゝのゝとと。よ元ゝ中孫ゝ日ゝ
りゝべゝとさめぐゝとる元て。かきゝぐゝかぞゝる
次ゝ我とあげて。元ありひもよゝぐゝ。ゆとて
さゝゝのゝぐゝとるゝ。めゝぐゝとゝのゝまゝとゝる
ゆへよひ。ひ水をゝとうゝとゝふ。後ゝとありひめゝまゝとゝよ。

かゝゝ十七

ゝ。ゝゝゝ

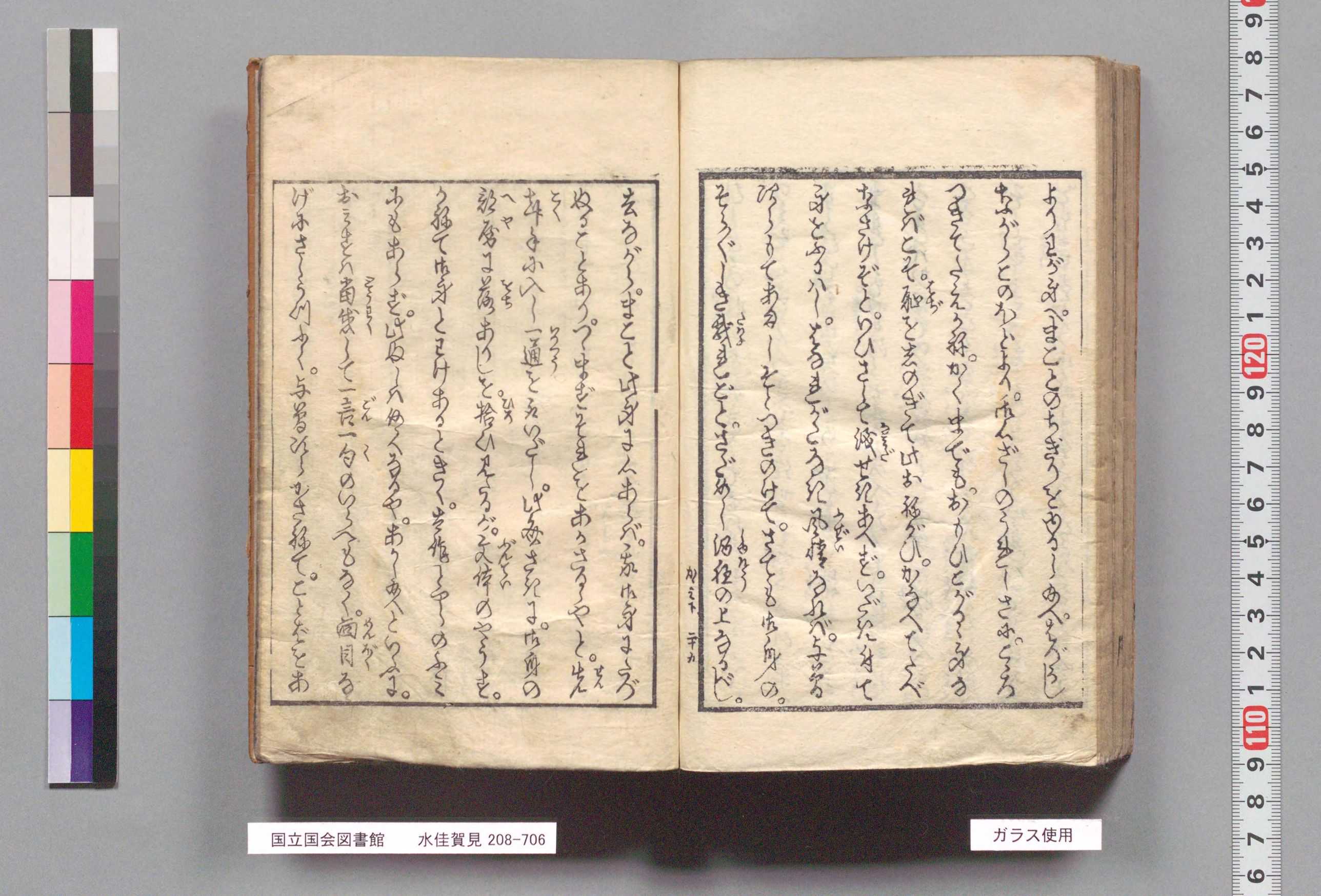
ととのうちかくく。今はたゝきうよ。中ぶのことゝ
ゆうくく。あかひよりえうの孫。まことの丈夫の業を
あくまかくしぶ。山かぜより毎夜。中まらふから
ようかの孫くまどもつくくありふまとまで中ふへ
つまるくせくゝ。中あくしこうもあくんるれば。とても
系子の孫ひかかるまで。とあかひきて。そること
さるべ。たまでのやまけ。ちめうよ業をきかめ
くまどべ。りやうあくありひあふ。中ふもあくば。兵



ひとつの情のお利ぎてあるまこそれのくんこと
のくぞと。まどうつきてるれかとてば。ふるかふ
ふくひで。それ中ふのこめよ。ふまで鼻毛をよ
ままくくも。男ふくまくどのべらる義理の幸抱
るまこば。かの孫その好意。ゆくて中ふを勝むべき。
とるくまとくも。ふまくかれば必親兵用
ぞくあくまとの孫とまどりかまこば。とるくこれる
とも。ふままどう。中ふよるどうとるくこば。

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用



よくよくぐるみ。まことのちぎりをゆるしあ
ぐらことのかとよく。ぐんぜーのこゝろ。さぶ。ころ
つまそこゝろえう。かく。ゆぐでもおかしとぐらこみる
ぎびとそ。和とそのぎそ。はお。稲ぐし。かるくとくべ
ちゆさけぞとりひさこそ。減せ。あくぐ。いぐ。ぐ。身て
みとあるハ。ゆるまぐこゝろ。ゆるべ。ゆるる
ぐこゝろてあるゝ。そゝつきのけて。さそも。ゆ身の。
そゝぐゝき。我まどとさぐめゝ。伺程の上ゆるぐ。

かえて　二十カ

去ゆるぐゝ。まことゝ。ゆ身よんあゝぐ。ゆ。ゆ身よゆ
ゆゝことゝあゝつ。ゆぐこそまゝとあゝさゆゝやと。ゆん
ゝく
ゆ身よふハゝ一通をゆいぐゝ。ぐ。ゆ。ゆ身の
へや
ゆ身よ。ゆ。あゝしを。拾ひゆゆゆ。ゆ。ゆ体のやゝゆ。
ゆ和て。ゆ身ゝこけあゝこゝきく。ゆ作ゝゝゆゝのゆこ
ゆもあゝぐ。ゆ。ゆゝあゝゆゝゆ。ゆゝゆゝあゝとゆゝる。
おゝゆゝとゆ。ゆ。ゆ。

らさぬ。さて作とゆゝへさつる操ハ女のたゝずまひも是
ゆゝしく世間せまく。外ふゝみとんとうハきたるゝ
敬の陽のいとづゝりの。特り佛系の美とゝひとし
る。敬の文云あるうへハ。皆悉所の任持するべし。
今ありハ人ハ出生の男子の面体。そもとよく似たる
ゝるいとこびもるゝ紀徴。撰ゝとも苗字ハ肉
食妻帯の寺ゝるとゝども出家らいせゝりのとの
ゝるひさてこそ此ゝどよゝ。佛系はゝのよせ。父



母の霊前をもおそれとゝど。三昧(ゝ)剛の不屈
ゝるとゝ教をひろへ出ゝ。ゝゝ。ゝちゝ。ゝげの世界。
かゝくゝゝ。淫奔堅弱の女。ゝゝまゝどハ的
どゝも性悪辛抱せゝ。ゝゝ男どの人の義
理ゝも生まで人面獣心ゝゝ。ゝゝげゝゝ
性根ゝゝおゝて中相つきゝゝ。ゝもゝ
伊勢の伯父市ゝ人中ゝ。美容よりて系
書ゝあゝて。ゝの外服ゝ。小統ゝ

国立国会図書館　水佳賀見 208-706
ガラス使用

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

つきしぬ
実報さまとおこうをたまうと。身のいとづうまう云
まうけるく。流れ玉をあざむくべうう。拝をさて
流るきまこび。京内のものでも同をさるく。るふぐと
ちうんと。そしてきうて。この体をたるようさけれ
ぬうぎ。実坊情をしてのつきうひうと。推察して
与者ひうを宥め。おうをのまとうひきうけて
まづとなうへとつまうきうが。此事推いふうく。
それと京内ゆ流云しうて。与者ひうのまあ。四



同ゆうしうやあもひうん。おうをとそまこよりへ。病
きまとうひうて。益義彩ひきうとうり。おうう
ぬうひしぐの利の当ふうへ。前座の衣数を遍て
るぐこうあうあて出のび生。おさるゆをまとて盛。
いのぐちうるく逸天うるうさとて女の身の
情うへ。此道よあうとや。かう遺花弟縁のむうひ。
あくまとうさとて。あうひ出うまを数
浮世流潤あうのうあ下冊終

208
3
706

後編おなじくこの編ともに先作なるゆえ攻撃せしもの絶えず河竹の作ゆえ芝居の人物の姓名妻子をかくまぎれなくあれば世間のためなる絵説辛苦し後よりこれを見るに全部二冊となし来年春出板

舊觀帖四編全二冊　瀧亭鯉丈作　溪齋英泉画

源平外記粲分艸全五冊　東里山人作　勝川春好画

右ハ新刊近日より売出し申候間求め覧ぜられ度候

文政五壬午年　江戸人形町通乗物町

孟春發行　鶴屋金助

同　京橋銀座三丁目　伊勢屋忠右衛門

かくれ　三十二

国立国会図書館　水佳賀見 208-706
ガラス使用

208
合 1
706

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用

国立国会図書館　水佳賀見 208-706

ガラス使用